

第5章

資料

本県が平成 28 年度に実施した「子育て外国人の日本語習得モデル事業」及び平成 29 年度に実施した「多文化子育てサークルによる言語習得促進事業」の報告書です。※

いずれも県の web ページからダウンロードいただくことができます。

平成 28 年度「子育て外国人の日本語習得モデル事業」報告書

【 <http://www.pref.aichi.jp/soshiki/tabunka/kosodate-nihongo.html>】

平成 29 年度「多文化子育てサークルによる言語習得促進事業」報告書

【 <http://www.pref.aichi.jp/soshiki/tabunka/tabucircle-report.html>】

※本マニュアルへの掲載にあたり、ページ数等、公開されている報告書から修正されている部分があります。

平成 28 年度 「子育て外国人の日本語習得モデル事業」 報告書

○事業概要……………P 99

○実施結果

A 特定非営利活動法人にわたりの会(小牧市)……………P 101

B 特定非営利活動法人希望の光(豊田市)……………P 104

C 特定非営利活動法人みらい(知立市)……………P 109

D 特定非営利活動法人フロンティアとよはし(豊橋市)……P 112

E 特定非営利活動法人トルシーダ(豊田市)……………P 115

愛知県

事業概要

1 目的

外国人保護者等に対して、外国人の子どもの乳幼児期における言語習得に必要な事項を周知させるとともに、子どもの成長に従って保護者に必要となる日本語能力を向上させるきっかけを提供することを目的とした「子育て外国人の日本語習得モデル事業」を以下の5つの団体に委託して実施した。

【委託先】

- 特定非営利活動法人にわたりの会（小牧市）
- 特定非営利活動法人希望の光（豊田市）
- 特定非営利活動法人みらい（知立市）
- 特定非営利活動法人フロンティアとよはし（豊橋市）
- 特定非営利活動法人トルシーダ（豊田市）

2 業務内容

- (1) 外国人保護者等に対して「子どもの成長に従って保護者に求められる日本語能力」を向上させるきっかけを提供するための日本語教室等の開催（次頁「1 子どもの成長に従って保護者に求められる日本語能力を育てる日本語教室を開催する上でのポイント」参照）。
- (2) 外国人保護者等に対して、次項「2 外国人の乳幼児期における言語習得に大切なポイント」を啓発するための育児教室・育児相談等イベントの開催。
 - ア 当該イベントでは、親子でできる遊びや料理教室、ベビーヨガを取り入れるなど外国人保護者等が参加しやすいような取組も実施。
 - イ 「外国人の乳幼児期における言語習得に大切なポイント」を効果的に伝達するためのちらし又はリーフレットなどの資料を作成・配布。

1 子どもの成長に従って保護者に求められる日本語能力を育てる日本語教室を開催する上でのポイント

- ① Can-Do ステートメント（何ができるかのリスト）等、「この日本語を身につけることで何ができるか」という視点を取り入れましょう
- ② 「言葉」だけでなく「行動・体験型の活動」を取り入れましょう
- ③ 子どもの学校生活について知るなど、子どもの成長にともなって相談にのれるような日本語能力を保護者に身につけてもらいましょう
- ④ それぞれの家庭の事情（言語・文化など）にも配慮しましょう
- ⑤ 次のような学習目標を取り入れてみましょう
 - ・母子保健：乳幼児期の健康診断や予防接種についてすべきことを学んだり、母子手帳の内容を理解して、子育てに必要なことを知る
 - ・学校：普段の学校の生活や年間行事について知り、また、進学システムなどの教育制度を理解して、保護者の役割を考える
 - ・地域：地域のいろいろな行事に参加したり、「図書館で本を借りる」など地域の施設を活用したりして、子育ての活動範囲を広げる
 - ・家庭：お弁当づくりなど、日本語のレシピで料理をつくる

2 外国人の乳幼児期における言語習得に大切なポイント

- ① 子どもには、「親が自信を持って話せる言語」で話しかけましょう
- ② 積極的に子どもとかかわり合って、子どものことばを増やしながらか親子のきずなを深めましょう
- ③ 地域のイベントや行事に参加するなど、いろいろな体験の中で子どもに自信をつけさせましょう
- ④ 外国人コミュニティの集まりを活用するなど、子どもに母語を使う機会を与えましょう
- ⑤ 親自身が自分たちの文化やルーツに誇りを持ちましょう

家族全員がこれらのことを理解して、一緒に子育てに取り組めば、子どものことばは育ちやすくなります。そして、子どもがスムーズに日本語を習得することにつながります。

しっかりと言語を身につけさせれば、子どもの生きる力となり、バイリンガルとしての活躍も期待できます。

2つ以上の言語が習得できる環境を大切にして子どもを育てましょう。

なお、既存の子育て支援施設等と連携すると、参加者を集めやすく、効果的になります。

実施結果

A 特定非営利活動法人にわたりの会(小牧市)

1 全体スケジュール

| | 日時・場所 | テ ー マ | 参加者 |
|-----|--|---|------|
| (1) | 平成 28 年 10 月 15 日(土) 13 時 00 分～15 時 00 分 小牧市南部コミュニティセンター | 『乳幼児検診、予防接種に役立つ日本語』 | 8 人 |
| (2) | 平成 28 年 11 月 19 日(土) 13 時 00 分～15 時 00 分 まなび創造館 調理室 | 『日本語で買い物をして、料理を作ろう!』 | 11 人 |
| (3) | 平成 28 年 12 月 17 日(土) 13 時 00 分～15 時 00 分 小牧市南部コミュニティセンター | 『日本の小学校これだけ知っておけば大丈夫』 | 16 人 |
| (4) | 平成 29 年 1 月 21 日(土) 13 時 00 分～15 時 00 分 小牧市南部コミュニティセンター | 『小学校高学年から中学生の子どもへの接し方』 | 19 人 |
| (5) | 平成 29 年 2 月 18 日(土) 13 時 00 分～15 時 00 分 まなび創造館 絵本図書館 | 『日本語と母語、絵本でともに育てよう』 協力:小牧市立図書館 絵本図書館 職員の方 | 19 人 |
| (6) | 平成 29 年 3 月 11 日(土) 13 時 00 分～15 時 00 分 小牧市南部コミュニティセンター | 『広報こまきを読んで、地域の行事に参加しよう』 協力:小牧市シティプロモーション課 職員の方 | 14 人 |

2 参加者募集方法・広報

小牧市立保育園・幼稚園、児童館、小牧市立小・中学校、ボランティア日本語教室にチラシ 600 枚を配布した。

3 事業を実施する上でのポイントや課題

(1) 外国人保護者等に対する啓発

ア 外国人の子どもの乳幼児期における言語習得に必要な事項を周知させるとともに、「外国人の乳幼児期における言語習得に大切なポイント」の各項目について、それぞれ具体的にどうやって伝えたら効果的だったか

- ・「大好きだよ」など我が子が大事だという思いを言葉でいちばん感情豊かに伝えることができるのは、母語である。また、おむつを替える、お乳を与えるなどの基本的ケアの際、「気持ちよくなったね」、「かわいいね」、「大きくなってね」などと話しかけやすいのは、母語である。
- ・母語でない言葉で声掛けや会話をしようとして、「このことは日本語でなんて言う

のだったのだろう」と考えているうちにタイミングを逃してしまうことが結構あったり、会話が途切れ途切れになりがちである。従って、母語で話しかけることが大事であり、また、自問自答し思考するための言語は、母語が望ましい。

- ・国際結婚の際、日本人夫が妻の母語使用を好まないこともある。夫婦で話し合っておくことが大事である。
- ・思春期に子どもが自身のアイデンティティに悩むことがある。自分の親の言葉、親の文化は一つではないことに困惑する子どもがかなりいる。乳幼児期から二言語で育てていくことは価値のあることである。
- ・子どもが母語を理解できないと中学校の後半になったとき、進路のことについて親子で会話したいが、それぞれが得意とする言語が異なり、複雑で微妙なニュアンスの話がしにくいということが起こる。子育ての期間は長く、子どもと親が話し合うことができるように、子どもの誕生時から用意していく必要がある。

イ 子どもの成長に従って保護者に必要となる日本語能力を向上させるきっかけを提供する上で難しかったことや工夫したことなど

- ・予定や持ち物に関する日本語が必要となる。子どもの病気や災害時の対応も日本語が必要になる。
- ・第2次反抗期になると、母語を理解する子どもであっても、親に聞かれない話や話さない話は日本語で話すようになり、親は日本語ができないことを悩むことがある。
- ・親が日本語を学ぶ姿を見せることは子どもの学習意欲全般を高めることになると考える。
- ・いろいろな事情を抱えた人が参加するので、進行が難しい。このときはカウンセラーに助けられた。

ウ 参加者からの主な相談・質問内容

- ・日本人夫が妻の母語使用を好まない。
- ・母語と日本語で話していたが、子どもの言葉がなかなか出なかったため、日本語だけで教えている。それでよいのだろうか。
- ・夫が妻の母語を理解し、母語で育てていたが、離婚により混乱が生じている。父親喪失の悲しみと園や学校でのやり取りができない母親に対し、子どもが母につらく当たるので困っている。
⇒「第1回目の参加者の悩み、母語は大切です」と話し始めた途端にその人は号泣。支援者のカウンセラーに対応してもらった。
- ・子どもの成績が心配。自分がわかることは教えられるが、記述式の問題、算数の文章題、作文の課題に困っている。
- ・親の日本語を学ぶ場、子どもの学習支援の場を探している。
⇒ 今回の主な会場である小牧市南部コミュニティセンターで週1回、日本語教室を開くことになった。

(2) 関係機関との連携

- ・小牧市子ども政策課、保健センター、シティプロモーション課や、小牧市立の保育園・幼稚園、小中学校、図書館、また、小牧市国際交流協会から情報宣伝の協力を得た。
- ・小牧市立図書館分館の絵本図書館に図書館利用の仕方、本の紹介、読み聞かせをしていただいた。
- ・市シティプロモーション課に外国語版広報について説明をしてもらい、利用者である外国人保護者の意見を吸い上げてもらった。
- ・小牧市南部コミュニティセンターの方に、その広報誌の説明と参加の呼びかけをしてもらった。

B 特定非営利活動法人希望の光(豊田市)

1 全体スケジュール

| | 日時・場所 | テ ー マ | 参加者 |
|-----|---|---|-------|
| (1) | 平成 28 年 9 月 24 日 10 時 00 分～11 時 00 分 浄水交流館 | イントロダクション 『ダブルリミテッドとバイリンガル』 | 14 人 |
| (2) | 平成 28 年 10 月 1 日 (土) 10 時 00 分～11 時 00 分 浄水交流館 | | 12 人 |
| (3) | 平成 28 年 10 月 8 日 (土) 10 時 00 分～13 時 00 分 浄水交流館 | <ul style="list-style-type: none"> 『言語聴覚学とは？ 子どもの様々なことばや学びの障害について』 『言語障害をはじめとする様々な障害の誤解について』 講師：ブラジル人学校 教育コーディネーター ヒガシリカ 氏 | 14 人 |
| (4) | 平成 28 年 10 月 15 日 (土) 9 時 30 分～18 時 30 分 南知多グリーンバレイ | 『自分のルーツを五感で感じよう！ —シュラスコで親子の文化継承—』 | 35 人 |
| (5) | 平成 28 年 10 月 22 日 (土) 10 時 00 分～13 時 00 分 浄水交流館 | <ul style="list-style-type: none"> 『ブラジル人言語聴覚士から学ぶ、日本での子育てについて』 『障害児のバイリンガルについて』 講師：(特活) きらり 言語聴覚士 イケダパメラ 氏 | 18 人 |
| (6) | 平成 28 年 11 月 19 日 (土) 10 時 00 分～13 時 00 分 浄水交流館 | <ul style="list-style-type: none"> 『遊びの中の学び』 『やってみよう！ 夢中になる学び方』 講師：ブラジル人学校 教育コーディネーター ヒガシリカ 氏 | 8 人 |
| (7) | 平成 28 年 11 月 26 日 (土) 10 時 00 分～13 時 00 分 浄水交流館 | <ul style="list-style-type: none"> 『言語聴覚士から学ぶ、ことばの発達と親子』 『やってみよう！ こども目線の遊び』 講師：豊田市こども発達センター 東俣じゅんこ 氏 | 10 人 |
| (8) | 平成 28 年 12 月 3 日 (土) 10 時 00 分～13 時 00 分 浄水交流館 | <ul style="list-style-type: none"> 『母語と継承語について』 『継承語と文化について』 講師：ブラジル人学校 教育コーディネーター ヒガシリカ 氏 | 10 人 |
| (9) | 平成 28 年 12 月 17 日 (土) 10 時 00 分～13 時 00 分 保見交流館 | <ul style="list-style-type: none"> 『バイリンガルについて』 『親子で共有するルーツのクリスマス』 講師：名古屋大学 国際言語センター 特任助教 鈴木崇夫 氏 | 178 人 |

| | | | |
|------|--|--|------|
| (10) | 平成 29 年 1 月 21 日 (土) 10 時 00 分～13 時 00 分 浄水交流館 | <ul style="list-style-type: none"> 『名古屋鑑別所地域支援課から学ぶ親子関係について ―やっではいけないことリスト―』 『親子関係の悩みを相談しよう』 講師：名古屋鑑別所 地域支援員 岡部はるか 氏 | 10 人 |
| (11) | 平成 29 年 1 月 28 日 (土) 10 時 00 分～13 時 00 分 浄水交流館 | <ul style="list-style-type: none"> 『いじめについて ―家族にできること―』 『アイデンティティの揺れと心の健康』 講師：ブラジル人学校 教育コーディネーター ヒガシリカ 氏 | 9 人 |
| (12) | 平成 29 年 2 月 4 日 (土) 10 時 00 分～13 時 00 分 浄水交流館 | <ul style="list-style-type: none"> 『バイリンガルの絵本との関わり方について』 『母語と日本語で絵本を読んでみよう！』 講師：おむすびころりん愛知 代表 小野則子 氏 | 10 人 |
| (13) | 平成 29 年 2 月 25 日 (土) 10 時 00 分～13 時 00 分 浄水交流館 | <ul style="list-style-type: none"> 『子どもとの関わりについて』 『カイピーラのルーツを親子で共有しよう！』 講師：愛知淑徳大学 非常勤講師 松本一子 氏 | 25 人 |

2 参加者募集方法・広報

今回の事業では、ターゲット層（ブラジル人）のほとんどが生活情報源としている Facebook を主な情報発信源とした。参加者の多くは、Facebook の告知用のティザー動画を見て、興味を持って頂いたようである。SNS を活用することで、告知画像・動画のリーチ数や共有（シェア）数を把握できるだけでなく、多様な意見をリアルタイムで頂くことができた。そして、外国人保護者のニーズをよりの確に把握し、事業内容を適宜修正しながら進めることができた。効率的かつタイムリーに情報を届けられただけでなく、チラシと比べて印刷・配布の手間や費用がかからず、コストパフォーマンスは非常に高かった。さらに、この情報を見た Facebook ユーザー同士の口コミが迅速広まっていった。うまく拡散されなかったときの対処法としては、期待しているリーチ数を設定し、数百円程度の費用で、地域・年齢などの項目を指定して該当するユーザーのページに情報を掲載できるサービスを活用した。それによって、周知が充分でなかった情報も数日で 600 人以上に届けることができた。

デザインは、ブラジル人コミュニティの中で活動する本団体の特有性を活かして、外国人の目にとまりやすく、興味を引き出せるよう情報のまとめ方を工夫した。特に、告知やリーフレットのデザインは、ブラジル人ママをデザイナーに起用したことで、日本人とは異なる観点から外国人の目を引き付けるイメージを提示することができた。

さらに、仕事と家事で忙しい人にも手軽に情報を届けられるよう、参加者募集の際には前回分の要約と次回の告知をアナウンス入り動画で配信した。男性ブラジル人 YouTuber を起用したことで、母親に限らず、広く関心を引き付けることができた。非常にわかりやすく手軽に本事業の重要性を訴える動画を投稿し続けたことによって、途中から本事業を知った人でも、情報をさかのぼってどんどん興味を持ってもらえ、知識欲を刺激することができた。

このように SNS を活用したことで、実際に活動に参加出来なかった人にも興味があれば情報が行き届くよう、活動の様子は全て映像として記録した。想定通り、外国人から

のリアクションは大きく、彼ら自身にも情報を周知してもらうことができ、非常に有効だった。本当にこの情報を必要としている人にきちんと届いているかは分からないが、リーチ数は想定以上の規模にまで届いている。

動画集：

https://www.facebook.com/pg/Projetobilingueaichi/videos/?ref=page_internal

告知動画再生回数：平均2,101回（最高7,787回）

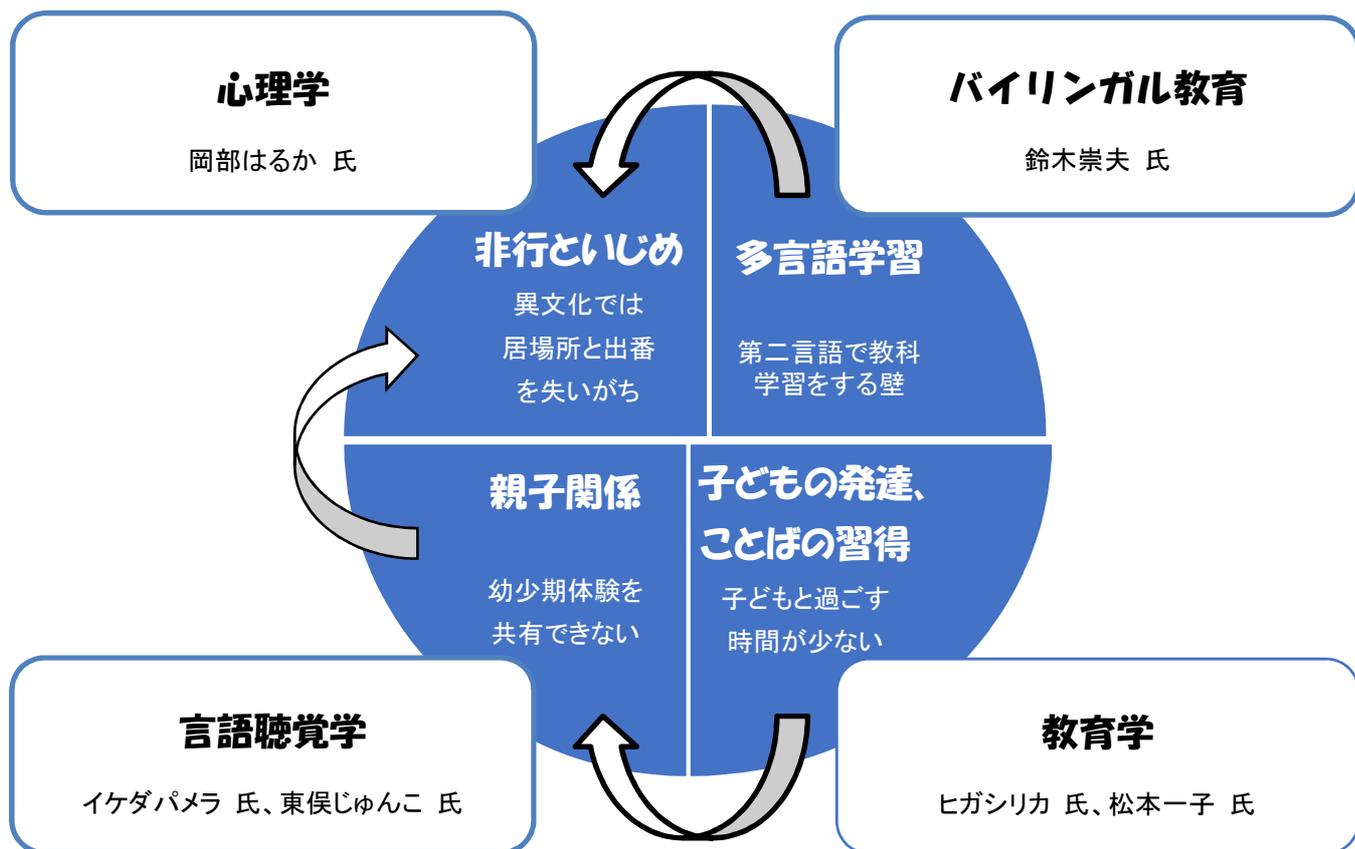
開催告知投稿のリーチ数：平均 914人（最高22,923人）、累計102,400人

投稿の共有（シェア）数：3,500回

3 事業を実施する上でのポイントや課題

(1) 外国人保護者等に対する啓発

- ① 「外国人の乳幼児期における言語習得に大切なポイント」の周知にあたって、言語習得等の専門家にアドバイスを求め、参加者と共有した。分野は、普段の子育て生活では日本語が話せなかったり、存在を知らないなどの理由によって、外国人保護者がアクセスしにくく課題とニーズが多いものを選定した。



特に、母語と現地語（日本語）を習得する上での課題とその解決方法について参加者と議論した。参加者の疑問の多くは「母語と日本語両方の習得は可能か」、「母語と日本語どちらを先に習得させるべきか」というものであった。それに対し、言語聴覚学やバイリンガルの専門家に的確なアドバイスを明示してもらい、日本社会で生きて

いく中で欠かせない、二つの言語の役割についての考え方を共有した。外国人保護者にも浸透するよう、抽象的なアドバイスではなく、「母語は子どものアイデンティティの拠り所になり、親子の絆を深めるツールである」、「“物事を考える能力を発達させる語彙数を持たせられる言葉”で話さなければ子どもの思考は制限される」など具体的に「何故」という点と、バイリンガル教育によって期待される効果や伸長される能力などを明示するよう心がけた。

- ② 「子どもの成長に従って保護者に必要となる日本語能力を向上させるきっかけ」については、子どもの成長をサポートする者（鑑別所職員）からその能力の必要性を強調してもらい、また、言語聴覚学やバイリンガルの観点も併せて「子どもの健全な社会参加は保護者の日本語学習の姿勢に影響される」ということを啓発した。

「危機感（鑑別所の事例や言語聴覚学で知られる障害）」と「希望（バイリンガルのニーズや将来活躍する可能性、ポテンシャルの高さ）」を明示するよう心がけた。

【子育て外国人の悩みやニーズ】

相談内容で特に多かったのは、「二つの言語を習得できるのか」、「どちらの言語から学習するべきか」、「母語はどうして大切なのか」といった母語と日本語の間で板挟みになっていることに関する悩みであった。しかし、これらは親自身の方向性にも影響されるものである。「日本に住むのか、帰国するのか」、「帰国は本当に可能か、永住は本当に可能か」など、どんな立場の保護者であっても未来を予知することはできない。「日本に住み続けられるかどうか誰にも分からないのであれば、まずは子どもの選択肢・可能性を広げるために何をすべきか」と考えてもらった。特に、「今、子どもに最大限してあげられるとは何か」を考えてもらった。子どもとたくさん話して、経験を共有して、かけがえのない今を刻むということにおいて、「保護者自身のキャパシティの中で最大限のコミュニケーションを取るための重要なツールである言葉を大切にしてほしい」ということを強調した。

【子ども目線で保護者への働きかけ】

子どもを大切に想い、立派に育ててほしいという願いは、どの保護者も変わらない。子どもの健全な成長を願う気持ちに働きかけ、それに重ねて、「乳幼児期における言語習得に大切なポイント」を伝えることが最も効果的であった。

今回の事業において、そのメッセージとポイントを最も参加者に届けられたのは、彼らの子どもたちの姿であった。日本で子育てする外国人として、「コミュニケーションを取ってください」と言葉で説明されるよりも、頑張って日本語を習得した子どもの姿、母語で心に響く歌を一生懸命届ける子どもの姿を目の当たりにすることで、彼らから自分が持つかけがえのない宝である子どもの成長における自身の役割を自発的に感じ取ることの方が何よりも効果的であった。

(2) 関係機関との連携

・豊田市こども発達センター

今回の事業では、「外国人の乳幼児期における言語習得に大切なポイント」が肝要

であったため、言語習得や言語発達の専門家にアクセスすることが不可欠であると考えた。日本で育つ外国人の子どもを取り巻く言語習得における問題は複雑に絡み合っている。まず「乳幼児期における言語習得」について理解することの必要性をしっかりと外国人保護者に感じてもらうことに注力した。母語や日本語など、言語発達に様々な側面があるからこそ、保護者やその子どもに関わる行政職員等も彼らの言語習得の発達を丁寧に見守り、サポートしていけるように、講演やワークショップ等を調整した。

・名古屋鑑別所

本事業の最も特徴的な連携機関の一つである。子育て事業において青少年の非行等に関わる鑑別所はあまり関連を持たないように思われるかもしれないが、ブラジル人コミュニティの中で活動する本団体だからこそ、当該機関が外国人の子育てに大きく関わっていることを実感している。学校に馴染めないまま幼少期を過ごした外国人の子どもは、一歩道を誤れば非行へと走ってしまう。日本人の子どもと比べ、外国人の子どもは家庭・学校・社会の中で居場所を見つけることが難しい。親の都合で来日して、言語も文化も知らない国で生きていかなければならない子どもたちは様々なフラストレーションを抱え込んでいる。外国人保護者にとって、子どものそういったストレスに気付かないまま理想的な親子関係を築くことは容易でない。このような課題について、親子関係の専門家でもあり多くの青少年をサポートしてきた鑑別所であれば、適切なアドバイスを頂けるのではと考え、調整した。

C 特定非営利活動法人みらい(知立市)

1 全体スケジュール

○ 外国人ママパパのための子育て日本語講座 & 役立つ育児情報

| | 日時・場所 | テ ー マ | 参加者 |
|-----|---|---|------|
| (1) | 平成 28 年 10 月 14 日(金) 17 時 00 分～19 時 00 分 UR 知立団地集会所 | ・子どもの発達にあった遊び & 育児相談 ・日本語講座『保育園・幼稚園』 講師：知立市立高根保育園 園長 岡部直子 氏 | 16 人 |
| (2) | 平成 28 年 10 月 22 日(土) 10 時 15 分～12 時 00 分 昭和児童センター | ・昭和児童センター「アイアイ教室」体験 ・日本語講座『子どもと遊べる日本語』 協力：昭和児童センター | 13 人 |
| (3) | 平成 28 年 11 月 26 日(土) 13 時 30 分～15 時 00 分 UR 知立団地集会所 | ・ベビーマッサージ & リズムあそび Part1 ・日本語講座『子どもの発達・育児グッズ』 講師：日本語がわかる子育て中の外国人保護者 | 6 人 |
| (4) | 平成 28 年 12 月 17 日(土) 10 時 30 分～13 時 00 分 UR 知立団地集会所 | ・ベビーマッサージ & リズムあそび Part2 ・日本語講座『病気のときに使う日本語』 協力：愛知医科大学 看護学部の学生 | 4 人 |
| (5) | 平成 29 年 1 月 20 日(金) 10 時 30 分～13 時 00 分 UR 知立団地集会所 | ・イベント 『妊婦さんとママのためのリラックスヨガ & 子どものことばを考える』 講師：前 名古屋大学 教授 村上京子 氏、 愛知淑徳大学 准教授 小島祥美 氏 | 19 人 |
| (6) | 平成 29 年 2 月 25 日(土) 10 時 30 分～13 時 00 分 UR 知立団地集会所 | ・ベビーマッサージ & リズムあそび Part3 ・特別講座『子どものことばを考える』 | 10 人 |

○ 有識者アドバイス公開ヒアリング

日時・場所：平成 28 年 12 月 12 日(月) 知立市保健センター

〈午前の部〉10 時 00 分～11 時 00 分 / 〈午後の部〉13 時 30 分～14 時 30 分

テ ー マ：『外国にルーツをもつ子どものことばを考える』

アドバイザー：愛知淑徳大学 非常勤講師 松本一子 氏

参加者数：41 人 (〈午前の部〉17 人 / 〈午後の部〉24 人)

2 参加者募集方法・広報

① チラシの配布

知立市子ども課・学校教育課・健康増進課・市民課・協働推進課の協力を得て、市内の保育園・学校・保健センター・市役所の外国人相談窓口・知立市多文化共生センター「もやいこハウス」にチラシを設置・配布した。保育園や保健センターにおいては、外国人保護者へ直接声掛けもして下さった。

- ② Facebook の活用 ③ 知立市広報への掲載
- ④ 本団体が従来実施している多文化親子サポート事業「みらい J r.」(以下「みらい J r.」という。)の活動内での個別の声掛け
- ⑤ 「みらい J r.」スタッフ・通訳による個別の声掛け

3 事業を実施する上でのポイントや課題

(1) 外国人保護者等に対する啓発

ア 外国人の子ども乳幼児期における言語習得に必要な事項の周知について

参加する外国人保護者の多くが、0～2歳の子をもつ親で、まさにこれから子どもがことばを覚えていく時期にあり、「子どものことば」についての関心の高さを感じた。

日本語が分からない外国人保護者に対して情報を周知していく上で、通訳者の存在は大きい。今回の事業では、参加者が正確に内容を理解し発言ができるよう、ポルトガル語とタガログ語の通訳に入ってもらった。参加者にとって、通訳者は「ただ言葉を訳してくれるスタッフ」ではなく、「安心して活動に参加し、相談ができる心の支え」ともいえる存在である。実際に通訳者に誘われて参加した保護者も多い。日本語がある程度分かる外国人保護者であっても、自分の母語で話ができる通訳者の存在は大きい。通訳者がいなかったら、参加人数も参加者からの発言の量や内容も大きく違っただろう。通訳者と参加者の間に信頼関係が築かれており、事業を実施する上で通訳者が果たした役割は大きかった。

通訳者のいない言語の外国人保護者の参加は少なかったため、通訳のない言語の外国人保護者が参加しやすい場をつくり、どう情報を伝えていくかが課題となった。

イ 子どもの成長に従って保護者に必要となる日本語能力を向上させるきっかけの提供について

参加者は乳幼児を持つ外国人保護者が中心であるため、まだ小さい子どもを育てる保護者にとって関心が高いテーマに絞り、日本語だけでなく、テーマに合わせた育児情報を提供する工夫をした。そして、外国人保護者が参加しやすいよう、事前申込みをなくし、当日気軽に参加できるようにした。ベビーマッサージなど、今までの活動の中で人気が高かったものも取り入れた。子どものお腹が空いてくることも予想し、また、大人もぎっくばらんに話ができるよう、軽食を用意した。参加者の日本語能力は様々で、育児情報も提供することから、日本語がほとんど分からない保護者には通訳者が寄り添って進行した。

参加者の満足度は高く、日本語への関心の高さや意欲を感じた。講座中は「見守り託児」に入ってもらい、子どもは親と同じ空間で、親にくっついたりおもちゃで遊んだり、思い思いに過ごしていた。ただ、親は常に自分の子どもに意識がいくため、終始講座に集中することは難しく、講座の内容を精査し、できるだけ短時間で簡潔に伝えなくてはいけない難しさを感じた。

育児に関する日本語について「知らなかった言葉や表現があって勉強になった」という声が聞かれるなど、今回の事業をきっかけに、日本語への学習意欲が出た外国人

保護者がおり、この事業の成果を感じる。一度に大勢の外国人保護者を集めることは困難であるが、引き続き、より多くの外国人保護者に日本語能力を向上させるきっかけを作る必要性を感じる。

外国人保護者の多くは、子どもがある程度大きくなると、保育園に子どもを預けて働き始める。今後の課題は、産休や育児休暇等を利用して日本語を学習したいと考えている外国人保護者が、子連れで学習できる環境や教室を整備していくことである。そのためには、予算と人材の確保が必要である。また、このような場の役割は、単に日本語を学習するだけではない。「みらいJ r.」の参加者の多くは、ママ友があまりおらず独りで子育てをしていたという実態がある。このような集まりが、ママ友を作る場、子どもを連れて遊びに行ける場、気軽に相談できる場、交流ができる場、子育てをする親の憩いの場となっている。こうした観点からも、継続していく必要性を感じる。

(2) 関係機関との連携

関係機関とは、本団体の従来活動を通して既に関係づくりができていた。そのため、今回の事業受託後も引き続き、活動への理解と協力を得ることができた。

関係機関の主な連携事項は以下の通りである。

【連携機関】

- ・ 知立市 子ども課、学校教育課、健康増進課（保健センター）、協働推進課
- ・ 知立団地自治会 ・ 愛知医科大学看護学部
- ・ (特活) 多文化共生リソースセンター東海

- ・ 前述のとおり、本事業の周知活動においては、チラシの設置・配布に各関係機関の協力を得ることができた。
- ・ 「外国人ママパパのための役立つ育児情報」においては、知立市子ども課の協力を得て、市内でも外国人園児が多く通う保育園の園長先生に講師として来ていただくことができた。また、児童センターを会場とし、施設体験を実現させることもできた。
- ・ 第4回『病気のときに使う日本語』では、愛知医科大学看護学部の協力を得て、ロールプレイの医師訳として学生に参加してもらうことができた。
- ・ イベントの打合せにおいては、知立市保健センターの保健師が積極的に参加をしてくださった。市の保健師が県の衣浦東部保健所にも声掛けをしてくださり、衣浦東部保健所からも参加があった。また、打合せ事項を早速指導に取り入れてくださり、具体的な効果も上がった。
- ・ 今年度は「知立市多文化共推進プラン」の見直しの年であり、本団体が委員となっている「多文化共生推進協議会」において、多文化共生に関する意見を市協働推進課に伝えることができた。

D 特定非営利活動法人フロンティアとよはし(豊橋市)

1 全体スケジュール

| | 日 時 | テ ー マ | 参加者 |
|-----|---|--|------|
| (1) | 平成 28 年 11 月 20 日 (日) 13 時 30 分～15 時 30 分 市営西部住宅第 2 集会所 | お弁当講座 『外国人ママ・パパのための料理教室』 講師：「こどもの料理」主催者 協力：(特活) Kids&Mama NPOねこのて | 15 人 |
| (2) | 平成 28 年 12 月 18 日 (日) 10 時 00 分～11 時 00 分 市営西部住宅第 2 集会所 | 『親子で遊ぼう・日本語で歌おう①』 協力：(特活) NPOまんま | 8 人 |
| (3) | 平成 29 年 1 月 15 日 (日) 10 時 00 分～11 時 00 分 市営西部住宅第 2 集会所 | 『親子で遊ぼう・日本語で歌おう②』 協力：(特活) NPOまんま | 5 人 |
| (4) | 平成 29 年 2 月 19 日 (日) 10 時 00 分～11 時 00 分 市営西部住宅第 2 集会所 | 『親子で遊ぼう・日本語で歌おう③』 協力：(特活) NPOまんま | 10 人 |
| (5) | 平成 29 年 2 月 22 日 (水) 20 時 00 分～21 時 00 分 県営岩田住宅集会所 | 『外国人ママ・パパのための子育ての日本語教室』 | 5 人 |
| | 平成 29 年 3 月 4 日 (土) 20 時 00 分～21 時 00 分 県営岩田住宅集会所 | | |
| | 平成 29 年 3 月 5 日 (日) 10 時 00 分～11 時 00 分 市営西部住宅第 2 集会所 | | |
| (6) | 平成 29 年 3 月 7 日 (火) 東陽地区市民館会議室 | 「リーフレット」個別説明会 | 19 人 |
| | 平成 29 年 3 月 9 日 (木) 市営西部住宅第 2 集会所 | | |
| | 平成 29 年 3 月 10 日～11 日 (金～土) 県営岩田住宅 | | |

2 参加者募集方法・広報

- ・ 県営岩田住宅及び市営西部住宅の各自治会に依頼し、チラシを対象家庭に配布して頂いた。また、各住宅内の掲示板にチラシを掲示して頂いた。
- ・ 本団体が県営岩田住宅及び市営西部住宅で別途実施しているプレスクールの授業において保護者に告知し、チラシを配布を行った。

3 事業を実施する上でのポイントや課題

(1) 外国人保護者等に対する啓発

- ・リーフレットについては、

【家庭の中で】

- ①子どもが親の話せることばにできるだけ多く触れる時間を作りましょう
- ②自分たちの子育てに自信を持ちましょう

【地域に目を向けて】

- ①近くにある施設に出かけてみましょう
- ②子育てサークルなどのイベントに参加してみましょう

と、項目を4つに絞って記載をしたことで、読む側に「わかりやすい」という印象を与える事ができた。そのため、読み終えた後の質疑応答を活発に行う事ができたと思う。また、通訳者や本団体スタッフから、体験談や経験談を交えながら内容を伝えたことが外国人保護者の立場に寄り添ったかたちとなり、参加者が積極的に意見を言える雰囲気作りができたのだと思う。

- ・今回、自治会の関係者も事業に積極的に関わってくださった。参加者に施設の紹介や自治会活動を説明して理解を促し、「今後子育てで困ったときに自治会役員が相談を受けてくれる」ということも関係者から伝えていただいた。これによって、参加者の自治会に対するイメージが変わり、「地域に子どもは育てられる」と書いた内容も理解してもらえたのではないかと思う。
- ・プレスクールにも子どもを通わせている今回参加した中国人保護者から、「小学校入学前に娘の名前を日本人のような名前に変えたいが、どう思うか」という相談を受けた。日本名の案も持参しており、スタッフとともに意見交換の場を設けた。「今の名前が少し読みづらい」、「それが元でいじめられると困る」、「変えるならタイミングは今ではないか」など、母親と様々な話をし、みんなで意見を出し合った。結論を出すことはできなかったが、話し終えた母親の表情が非常に明るかったため、また何かあったらいつでも連絡するよう伝え、見送った。
- ・「子育て」をキーワードにしてつながり、相手と信頼関係を築くことができれば、悩み相談をしたいと思っている外国人の母親が多いのではないかと強く感じた。「母親自身、自分の親は遠くに住んでいて頼れない」、「行政窓口に行く勇気がない」、「見ず知らずの人に自分の悩みを相談するのは恥ずかしいし、気が引ける」、「日本人のやっている子育てサークルにも行きづらい」など、我々が想像するより孤独な状況で外国人は日本で子育てをしているのだろうと思う。今回協力頂いた子育て支援のNPOや自治会と、我々のような外国人支援団体とが本事業を通して繋がれたことは、外国人保護者にとって「頼れるところ、頼れる人」ができ、彼らの安心につながったと感じている。今後も何らかのかたちでこの事業を継続する方法を考えていきたいと思う。
- ・悩みを聞く・相談に乗るといえるときに、相手が同じ国の出身者であり、同じ境遇を経験し、言葉がわかる人間でなければ信頼関係を築くのは容易でなく、安心して相

談できないだろう。今回出会った外国人保護者が日本語を勉強し、自分の経験を活かし、我々とともに活動できるようになってほしいと願っている。しかし、「日本語の勉強」感を前面に出すと外国人はなかなか足が向かないという現状があるため、日本語教室をより参加しやすい日時と楽しく学べる内容となるように考え、実施したいと思う。

(2) 関係機関との連携

今回最も残念だったことは、実施会場周辺の保育所や幼稚園とうまく連携がとれなかったことである。保育士の講師派遣依頼も試みたが、本団体の実施日程は休日か平日夜間で、業務時間等の関係で講座で話をしに来て頂くことが難しいところが多かった。また、西部住宅周辺3園には同住宅の子どもたちは通園しておらず、外国人園児もほとんどいないという現状であった。

今後は本事業の継続を視野に入れ、プレスクールの保護者を通した保育園・幼稚園との関係作りや市の担当課との関係を構築していきたいと考えている。

E 特定非営利活動法人トルシーダ(豊田市)

1 全体スケジュール

| | 日時・場所 | テ ー マ | 参加者 |
|-----|---|---|------|
| (1) | 平成 28 年 9 月 17 日 (土) 10 時 30 分～12 時 00 分 とよた市民活動センター | ワークショップ 『子育ての悩み、困りごと』 | 21 人 |
| (2) | 平成 28 年 10 月 29 日 (土) 13 時 30 分～15 時 30 分 とよた市民活動センター | 『1 回目のワークショップの意見に答えます』 | 27 人 |
| (3) | 平成 28 年 11 月 12 日 (土) 13 時 30 分～15 時 30 分 とよた市民活動センター | 『母語の重要性について』 講師：とよた日本語学習支援システム システム・コーディネーター 鈴木崇夫 氏 | 8 人 |
| (4) | 平成 28 年 12 月 10 日 (土) 10 時 30 分～12 時 00 分 とよた市民活動センター | 子育て支援グループとの交流 『子育て交流会』 協力：キッズプランナー | 19 人 |
| (5) | 平成 29 年 2 月 4 日 (土) 13 時 30 分～15 時 30 分 とよた市民活動センター | ワークショップ 『子育て情報リーフレットを作ろう①』 | 16 人 |
| (6) | 平成 29 年 2 月 11 日 (土) 13 時 30 分～15 時 30 分 とよた市民活動センター | ワークショップ 『子育て情報リーフレットを作ろう②』 | 12 人 |
| (7) | 平成 29 年 2 月 13 日 (月) 15 時 30 分～17 時 00 分 西保見小学校 | 『学校について知ろう』 | 8 人 |
| (8) | 平成 29 年 3 月 4 日 (土) 9 時 30 分～14 時 30 分 浄水交流館 | 調理実習 『新 1 年生お弁当と日本のおかず』 | 27 人 |

2 参加者募集方法・広報

- ・チラシの配布（日本語教室、学校、とよた市民活動センター）
- ・SNS（Facebook など） ・ 口コミ

3 事業を実施する上でのポイントや課題

(1) 外国人保護者等に対する啓発

- ・事業の最初にワークショップを行い、子育ての課題を共有した上で参加者が望んでいる情報を提供した。
- ・子育て講座を通して「保護者が日本語を学ぶことの重要性」を伝えることは難しいと感じたが、各回のテーマに沿って「学校の先生への頼み方」、「算数の文章問題でよく

出てくる言葉」、「子どもへの声掛けの言葉」などの日本語を学ぶ機会を作った。参加者の中から「家で子どもに宿題を教えるために『算数の文章問題で使う言葉の日本語教室』をやってほしい」という声があった。

- ・自分自身が日本の学校で苦勞したという保護者もいる世代であり、母語を保持することが難しくなっている現状において、母語保持について啓発していくことは大切である。しかし、日本人男性と国際結婚したケースでは、遠慮もあり家庭で母語を使うことは難しいようだった。他にも、「学校の先生に日本語を使うように言われた」、「母親が外国語を使うことを子どもが嫌がる」といった話もあった。周囲の理解を促すことを併せて行う必要がある。
- ・家庭学習については、「日本語が分からないから何もできない」ということはなく、「家庭でもできることがある」ということを参加者と共に考えてきた。その結果、小学2年生の児童Aの母親は、学校の生活科の授業「おおきくなったわたしたち」（今までの自分の成長をファイルにまとめる学習）で子どもから手紙を書くことを依頼されると、立派なカードにポルトガル語で手紙を書いた。児童Aはそのポルトガル語を読めなかったが、たまたま研究授業でその場に参加していたバイリンガルの先生に読んでもらった。児童Aは「自分は2回泣いた」と言っていた。
これとは対照的に、児童Bの保護者は「日本語が分からない」という理由で結局子どもへの手紙を書かなかった。本事業を通して一番印象的な出来事だった。
- ・事業実施にあたって、参加者への呼び掛けや講座の進め方など「日本人の意識」と「外国人の立場や考え方」をよく理解したバイリンガルスタッフが活躍した。参加者はワークショップ等の話し合いで悩みが解決できたこともあったようで、事業の継続を望む声があった。なお、バイリンガルスタッフはFacebookなどSNSでの告知を担当し、広く反応があったが、参加者の増加にまでは至らなかった。

(2) 関係機関との連携

- ・子育て支援グループとの交流会は大成功だった。以下の点が主な成功の要因と思われる。
 - 中間支援組織である「とよた市民活動センター」に適切な団体を紹介してもらったこと。
 - キッズプランナーと十分な打合せをして、事業目的、参加者の背景や言語の課題を理解していただいたこと。
 - キッズプランナーの専門性と豊富な知識・経験があったこと。
- ・母語の重要性を啓発するため、プレスクール事業と関連づけた事業実施を検討したが、スケジュール調整が難しく実現できなかった。母語については、一人ひとり背景や状況が異なり、課題も一律ではない。少人数で座談会的に専門家に相談ができる機会が必要だと思われる。

平成 29 年度 「多文化子育てサークルによる言語習得促進事業」 報告書

○事業概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 118

○実施結果

- 1 特定非営利活動法人みらい（知立市）・・・・・・・・P 119
- 2 特定非営利活動法人トルシーダ（豊田市）・・・・P 129

事業概要

1 内容

外国人乳幼児の親子による「多文化子育てサークル」を設置し、このサークル内で子育てに関する意見交換や親子遊びを行うとともに、平成 28 年度に実施した「子育て外国人の日本語習得モデル事業」の成果を踏まえ、「外国人の乳幼児期における言語習得に大切なポイント」（以下、参考参照）や母子保健・保育所の制度など、日本で子育てをするために大切な事項を伝えながら、子どもの成長に従って保護者に求められる日本語能力を育成することを目的とした「多文化子育てサークルによる言語習得促進事業」を実施した。

2 実施方法

以下の2団体への委託により実施。

【委託先】

特定非営利活動法人みらい（知立市）

特定非営利活動法人トルシーダ（豊田市）

3 スケジュール

平成 29 年 8 月から平成 30 年 2 月までの間に、各団体が 7 回ずつ開催

参考：外国人の乳幼児期における言語習得に大切なポイント

- ① 子どもには、「親が自信を持って話せる言語」で話しかけましょう
- ② 積極的に子どもとかかわり合って、子どものことばを増やしながらか親子のきずなを深めましょう
- ③ 地域のイベントや行事に参加するなど、いろいろな体験の中で子どもに自信をつけさせましょう
- ④ 外国人コミュニティの集まりを活用するなど、子どもに母語を使う機会を与えましょう
- ⑤ 親自身が自分たちの文化やルーツに誇りを持ちましょう

家族全員がこれらのことを理解して、一緒に子育てに取り組めば、子どものことばは育ちやすくなります。そして、子どもがスムーズに日本語を習得することにつながります。

しっかりと言語を身につけさせれば、子どもの生きる力となり、バイリンガルとしての活躍も期待できます。

2つ以上の言語が習得できる環境を大切にして子どもを育てましょう。

実施結果

1 NPO法人みらい実施@知立市

(1) 全体スケジュール

| | 日時・場所 | テ - マ | 参加親子数 |
|-----|--|-----------------------------|-------|
| (1) | 平成29年8月26日(土) 10時30分～13時00分 UR知立団地集会所ABホール | 「リラックスヨガ & おはなし会」 | 10組 |
| (2) | 平成29年9月8日(金) 10時15分～11時30分 昭和児童センター | 「乳幼児親子教室に参加しよう」 | 8組 |
| (3) | 平成29年9月23日(土) 10時30分～13時00分 UR知立団地集会所親和室 | 「エプロンシアター& 子どもがいる家庭の防災」 | 10組 |
| (4) | 平成29年10月28日(土) 10時30分～13時00分 UR知立団地集会所親和室 | 「親子ふれあい遊び&子どもと病気」 | 15組 |
| (5) | 平成29年11月25日(土) 10時30分～13時00分 UR知立団地集会所親和室 | 「ベビーマッサージ& 子どものことばどうする？」 | 13組 |
| (6) | 平成29年12月16日(土) 10時30分～13時00分 UR知立団地集会所親和室 | 「おもちゃ広場&子どもと遊び」 | 11組 |
| (7) | 平成30年1月27日(土) 10時30分～13時00分 UR知立団地集会所親和室 | 「絵本の読み聞かせ&子どもと食事」 | 14組 |

(2) 参加者募集方法

- ①Facebook を活用した。スマートフォンの小さい画面でも、分かりやすい情報となるよう、各回ごとにチラシを作成・発信した。チラシは日本語のほか、ポルトガル語と英語に翻訳した。
- ②保健センターの協力を得て、健診の際や、赤ちゃん訪問などで、保健師さんや通訳さんから、外国人保護者へ直接声かけをしていただいた。
- ③チラシを外国人児童が多く通う保育園、幼稚園、小学校にて配布していただいた。また、市役所の外国人相談窓口や知立市多文化共生センターに設置していただいた。
- ④みらいJ r. スタッフから、直接外国人保護者へ声かけをした。

(3) 各回報告

第1回「リラックスヨガ & おはなし会」

ア 参加者内訳（保護者の母語別）

ポルトガル語 4組、スペイン語 4組、フィリピン語 2組

イ 実施内容

| | 内 容 | 活動内容 |
|-------|---------|---|
| 10:30 | 会場案内、準備 | ヨガの準備等 |
| 10:40 | 自己紹介 | |
| 10:45 | ヨガ | 親はヨガに参加をする。子どもは同室にあるおもちゃで遊んだり、親のところに行ったり思い思いに過ごす。スタッフが子どもの遊びを見守る。 |
| 11:45 | 軽食、交流会 | 親子で軽食をとりながら、参加者同士、またスタッフと参加者の交流を図る。 |
| 12:30 | おはなし会 | 育児をする上で困っていることや悩み等を話し合う。 |
| 13:00 | 片づけ 解散 | |

ウ 目的

子育て中の親に人気の高いヨガを行い、気軽に参加してもらおう。ヨガを通して体だけでなく、心もほぐしてもらい、後半のおはなし会を意見が出しやすい和やかな雰囲気で行進して、参加者が子育てをする上で、感じていること、困っていることを把握・共有する。

エ うまくいったこと/いかなかったこと、苦労したこと

- ・ヨガに興味があり、初めて参加された方もいて、新たな参加者との出会いの場となった。
- ・軽食をとりながら参加者同士が談笑する姿が見受けられ、参加者がつながる場となった。
- ・子どもたちが同室で遊んでいたため、リラックスというよりもぎやかなヨガとなったが、参加者の満足度は高く、子どもたちも思い思いに遊ぶことができ、終始和やかな雰囲気で行うことができた。

オ 参加者の反応

「ずっとヨガをしたいと思っていたので、できてよかった。」「またやってほしい」という声があがるなど、参加者の満足度が高かった。

おはなし会では、「病院で男の子のおちんちんをきれいに洗うように指導されたが、子どもがとても嫌がる。どうすればいいか。」「仕事をやめて内職をしようかと思う。どうやって内職の仕事を探せばいいか。」「幼稚園と保育園はどう違うのか。申し込んだらすぐに入れるのか。」「兄弟同じ保育園に入れることはできるのか」といった質問があった。

第2回「乳幼児親子教室に参加しよう」

ア 参加者内訳（保護者の母語別）

ポルトガル語 4組、スペイン語 1組、フィリピン語 2組、ベトナム語 1組

イ 実施内容

| | 内 容 | 活動内容 |
|-------|----------------------|--|
| 10:00 | 集会所前集合 | 参加者で集まって、地域の乳幼児親子教室へ行く（集合場所から徒歩1分未満）。 |
| 10:15 | 昭和児童センター到着 | 用紙に名前を書いて入室していく流れを、説明を聞きながら体験する。 |
| 10:30 | 乳幼児親子教室アイアイ参加 | 一般の参加者とともに、乳幼児親子教室に参加する。 |
| 11:10 | 昭和児童センター長のお話 質疑応答 | 施設についての説明、子どもの発達についてのお話を聞き、幼稚園や保育園に関することを中心とした質疑応答を行う。 |
| 11:40 | 解散 | |

ウ 目的

地域の子育て支援に関する社会資源の一つである児童センターを知り、センターで開催されている乳幼児親子教室に実際に参加することで、地域の子育て支援サービスの活用につなげる。施設を利用する上で必要な日本語を学ぶ。また、幼稚園、保育園申込み前のこの時期に、知っておくと良い情報を伝える。

エ うまくいったこと/いかなかったこと、苦労したこと

- ・参加者が昭和児童センターについて知ることができた。また、施設の職員にとっても、施設の活動が外国人住民に知られていないことを知る機会となった。
- ・幼稚園や保育園について参加者の疑問に答える場となった。次年度の入園を希望している参加者もあり、入園申込み前のタイミングに開催できたことで、必要な情報を必要な時期に伝えることができた。
- ・普段家庭で過ごしている子どもにとって、集団の遊びを体験する場となった。
- ・施設を利用する上でのきまり（飲食禁止など）を親子で学ぶ場となった。
- ・遊戯室が広いため、子どもたちがはしゃいで走り回ってしまった。施設の保育士の日本語の指示を親が理解できない場面もあった。一度だけでなく回数を重ねていく必要性を感じた。回数を重ね、きまりや日本語に慣れていくことで、入園の準備にもつながると考える。
- ・保護者が個人的な悩みを打ち明けられる場となった。

オ 参加者の反応

乳幼児親子教室でリズム遊び、手遊び、絵本の読み聞かせを親子で楽しんでいる様子が見られ、参加者から「楽しかった」という感想が聞かれた。児童センターについては、「近所でありながら、施設について全く知らなかった」という感想もあった。このサークルをきっかけに、ママ友同士で時間を決めて施設を利用するようになった親子もいる。また、「子どものために参加をしたいと思っても、自分一人が外国人だと不安を感じる。みんなで行くと参加しやすいと思う」という声が聞かれた。

第3回「エプロンシアター＆子どもがいる家庭の防災」

ア 参加者内訳（保護者の母語別）

ポルトガル語4組、スペイン語2組、フィリピン語2組、ベトナム語1組、中国語1組

イ 実施内容

| | 内 容 | 活動内容 |
|-------|------------------------------------|--|
| 10:30 | 自己紹介 新聞紙でスリッパ作り | 親は新聞紙でスリッパを作る。子どもはおもちゃで遊ぶなど思い思いに過ごす。 |
| 10:50 | テープシアター | 保育士の講師によるテープシアターや手遊び、絵本の読み聞かせ等を親子で楽しむ。 |
| 11:20 | 子どもがいる家庭の防災 | 知立市安心安全課の職員を講師にお招きし、クイズ形式で防災について考える。 |
| 12:15 | 非常食の試食 軽食をとりながら交流 非常持ち出し袋の紹介 | 実際にアルファ米などの非常食を試食したり、非常持ち出し袋を見て、理解を深める。軽食をとりながら参加者同士交流をする。 |
| 13:00 | 解散 | |

ウ 目的

子どもたちが大好きなテープシアターを親子で楽しむ。また、小さい子どもがいる家庭の防災について、地震が起きたら、どう子どもの命を守るのか、日頃から何を備えておけば良いのかを学ぶとともに、アルファ米などの非常食を実際に食べてもらい理解を深める。

エ うまくいったこと/いかなかったこと、苦労したこと

- ・ポルトガル語圏、スペイン語圏の参加者には、ポルトガル語の通訳一人では対応しきれない場面があった。言葉が分かる参加者同士で助け合う姿がみられた。
- ・防災について、少し内容が難しい場面もあったが、最後まで理解しようとする参加者の姿がみられた。
- ・食事の前に、流しの前に並んで順番に親子で手を洗うことができおり、食事前の手洗い行動が習慣化しつつある。
- ・みんなが揃うまで食べ始めるのを待つよう子どもに話す親の姿がみられ、サークルの活動の流れやルールの定着がみられた。
- ・食事の用意や、通訳のいない言語の参加者へのフォロー等でスタッフの手がまわりきらなかった。保護者が防災の話真剣に聞く間、子どもたちを見る大人の目が少なくなってしまう。

オ 参加者の反応

非常食について「いろいろな非常食を試食できてよかった。」「とてもおいしかった。」という声があった。また「便利な防災グッズを知ることができてよかった。」という感想も聞かれた。安心安全課の防災クイズで、地震が起きたら、「笛と水とどちらを持っていらいいか。」「まずガスを止めた方がいいか机の下にもぐった方がいいか、どちらがいいか。」などの具体的な質問を通して、よりよく理解することができたという声もあった。

第4回「親子ふれあい遊び&子どもと病気」

ア 参加者内訳（保護者の母語別）

ポルトガル語6組、スペイン語4組、フィリピン語3組、中国語2組

イ 実施内容

| | 内 容 | 活動内容 |
|-------|-------------------|--|
| 10:30 | 自己紹介 | 円になって座り、自己紹介をする。 |
| 10:35 | 親子ふれあい遊び | 保育士らによる親子ふれあい遊び（お手玉、童謡など）を楽しむ。 |
| 11:05 | ハロウィンの工作 | みらいJr.スタッフによるハロウィンの工作（帽子づくり）を親子で楽しむ。 |
| 11:30 | おはなし会 「子どもと病気」 | 子どもと病気について、講師の話を聞き、子どもの病気について知識を深める。また、参加者の悩みや疑問にアドバイスをいただく。 |
| 12:15 | 軽食をとりながら交流 | 軽食をとりながら、参加者同士交流する。 |
| 13:00 | 解散 | |

ウ 目的

地域で活躍する保育士から親子で楽しめるふれあい遊びを教わる。また、体調を崩しやすい子どもが増えてくるこの時期に、講師から子どもと病気について学ぶとともに、子どもが体調を崩したときの対応についてもアドバイスをいただく。

エ うまくいったこと/いかなかったこと、苦労したこと

- ・市の保健センター、市内の外国人園児の多い保育園、幼稚園、小学校にてチラシ配布の協力を得ることができた。また、市役所の外国人相談窓口、多文化共生センターにおいても、チラシを設置していただいた。SNSを活用した広報や参加者同士の声かけもあり、多くの親子に参加してもらうことができた。
- ・お手玉や童歌など、日本で親しまれている遊びへの参加者の反応がとてもよく、楽しむことができた。日本の遊びや童謡の良さを味わうことができた。
- ・ハロウィンの工作では参加者が熱中して取り組むことができ、季節を感じながら参加者同士で楽しむ時間となった。
- ・お話し会では、専門家の先生から話を聞くことができ、保護者の満足度が高かった。保護者が知っておくとよい日本語についても触れる予定であったが、時間がなく扱うことができなかった。
- ・多くの参加者に参加してもらえたが、気が付かないうちに帰ってしまった参加者もいた。人数が多くなるほど、個別に声をかけたりフォローをすることが難しくなる。

オ 参加者の反応

「子どもが体調を崩しやすい時期なので、話が聞きたくて参加した。」「子どもの便秘について相談できてよかった。」「専門家の先生のお話が聞けてよかった。」「大きな声で分かりやすく説明してもらえてよかった。」などの声をいただいた。一方、「普段かかるお医者さんの医学用語がわかりにくい」など悩みの声もあった。

第5回「ベビーマッサージ・リズムあそび&子どものことばはどうする？」

ア 参加者内訳（保護者の母語別）

ポルトガル語9組、フィリピン語1組、ネパール語1組、ミャンマー語2組

イ 実施内容

| | 内 容 | 活動内容 |
|-------|--------------------------|---|
| 10:30 | 準備・談笑 | 参加者が集まり、お互いに自己紹介をする。 |
| 10:45 | ベビーマッサージ | 親子でベビーマッサージをする。おもちゃで遊ぶ子どももおり、子どもの様子に合わせて参加。 |
| 11:25 | リズム遊び | みらいJr.によく参加しているママによる歌とリズム遊びを参加者で楽しむ。 |
| 11:35 | おはなし会 「子どものことばはどうする？」 | ことばの役割や親が自信をもって話せる言語で子育てする大切さについて、一緒に考え、参加者の思いや悩みを共有する。 |
| 12:15 | 軽食をとりながら交流 | 軽食をとりながら、参加者同士交流する。 |
| 13:00 | 解散 | |

ウ 目的

人気の高いベビーマッサージを行い、親子でスキンシップをとりながら心地よい時間を過ごす。ことばの役割や親が自信をもって話せる言語で子育てをする大切さについて、一緒に考え、参加者の思いや悩みを共有する。また、サークル参加者の主体的な活動参加を促す。

エ うまくいったこと/いかなかったこと、苦労したこと

- ・保護者の主体性が生まれており、リズム遊びは日頃参加している保護者が主体となった。
- ・おはなし会では、参加者が講師の話をととても真剣に聞いていた。軽食の時間に保護者同士がそれぞれの家庭で使用している言語や自分の考えについて話し合っている姿がみられた。
- ・今回の参加者の中には、「ここは日本だから」と、子どもが理解できないかつ親自身も得意ではない日本語を家庭で使おうとしていた保護者もおり、おはなし会を通して、「家庭言語を母語にしたいと思います。」という感想がきかれた。
- ・保護者がおはなし会の講師に対して好印象をもち、信頼する姿がみられた。子どもが小学校に入学するとき、こうした信頼の積み重ねは保護者の警戒心を払拭することにつながる。
- ・当団体の学習支援卒業生の高校生や大学生、学習中の中学生が、託児ボランティアとして加わった。中には保育士を志望している学生もおり、自主的に活動を手伝ってくれた。
- ・言葉の違う参加者同士の交流があまり行われなかった。次回の課題としたい。

オ 参加者の反応

ベビーマッサージについて「とてもよかった。もっと知りたい。」という意見があった。また、おはなし会については、「とてもわかりやすかった」「講師の先生が素晴らしかった。自分の子どももこんな先生に教えてもらいたい。」「言語について他の保護者も自分と同じ悩みを持っていることが分かってよかった」「これからは家庭で母語を使いたい。」などの感想が聞かれた。

第6回「おもちゃ広場・たのしいあそび&おはなし」

ア 参加者内訳（保護者の母語別）

ポルトガル語8組、スペイン語1組、フィリピン語1組、ネパール語1組

イ 実施内容

| | 内 容 | 活動内容 |
|-------|------------------------|---|
| 10:30 | 準備・談笑 | 参加者が集まり、自己紹介をする。 |
| 10:30 | おもちゃ広場 | 親子が一緒におもちゃで遊ぶ。 |
| 11:40 | おはなし会 「子どもとあそび」 | 子どもと遊びについて、おもちゃコンサルタントによる話をきく。 |
| 11:35 | 楽しい遊び 「リズム遊び&ピニャータ」 | みらいJr.スタッフと、よく参加しているママによるリズム遊び、ピニャータを参加者で楽しむ。 |
| 12:15 | 軽食をとりながら交流 | 軽食をとりながら、参加者同士交流する。 |
| 13:00 | 解散 | |

ウ 目的

様々な種類のおもちゃを通して、親子で楽しく遊んだり、参加者同士の交流を図るとともに、子どもの遊びやおもちゃについて、おもちゃコンサルタントからアドバイスをもらい、親としてできることを考える。また、サークル参加者の主体的な活動参加を促す。

エ うまくいったこと/いかなかったこと、苦労したこと

- ・おもちゃコンサルタントさんとの通訳についての打ち合わせが不十分だった。通訳が入る間がないまま話が進んでしまったので、冒頭の通訳が不十分になってしまった。
- ・今回もリズム遊びの一つを外国人保護者が主体となって行い、また、ピニャータの一つを外国人保護者が用意してくれた。参加者が主体となる雰囲気生まれてきている。
- ・ピニャータの歌（本来はスペイン語）で、1から5の数を数えるとき、いろいろな国の言葉で数えたのがよかった。ネパール語だけ間に合わなかった。

オ 参加者の反応

夜勤明けのお母さんも子どもをつれて参加してくれたり、「授乳があるので、先に帰るが、本当はもっと残りたい。」と言う声があがるなど、参加者は楽しんでいる印象だった。サークル終了後も、余韻に浸り、なかなか帰らず、保護者同士で話している様子がみられた。また、「おもちゃコンサルタントの方の“家庭にあるおもちゃは限られているので、子育て支援センターなど違う場所に行き、おもちゃで遊ばせると、子どもの違う姿が発見できる”という話がよかった。」「子どもが自然にもっている、“できる”“わかる”ようになりたいという気持ちを大切にしていきたいと思った。」などの感想も聞かれた。

第7回「絵本の読み聞かせ&子どもと食事」

ア 参加者内訳（保護者の母語別）

ポルトガル語 9 組、フィリピン語 4 組、ベトナム語 1 組

イ 実施内容

| | 内 容 | 参加者の活動 |
|-------|--------------------------------|---|
| 10:30 | 準備・談笑 | 参加者が集まり、自己紹介をする。 |
| 10:30 | 絵本の読み聞かせ | 絵本の読み聞かせについて、スタッフの話を聞く。 参加者それぞれが絵本を手に取り楽しむ。 参加者が母語の絵本の読み聞かせをする。 |
| 11:40 | 楽しい遊び | みらい Jr.スタッフと常連の参加者が中心となり、手遊び、福笑い、リズム遊びを楽しむ。 |
| 11:35 | おはなし会 「子どもと食」 | 保健師から子どもの食について話を聞く。 悩みや疑問を相談する。 |
| 12:15 | 三角おにぎりづくりの後、フィリピン料理の軽食をとりながら交流 | 三角のおにぎりの作り方を学ぶ。 軽食をとりながら、参加者同士交流する。 |
| 13:00 | 解散 | |

ウ 目的

絵本の読み聞かせの大切さについて学び、親子で絵本に親しむとともに、親子で楽しく遊んだり、参加者同士の交流を図る。また、子どもの食に関する正しい知識を得るとともに、悩みや疑問を相談する。さらに、三角のおにぎりの作り方を学んだり、参加者の国の料理を食し、国籍を超えた参加者の交流を行う。

エ うまくいったこと/いかなかったこと、苦労したこと

- ・絵本の読み聞かせについて話をする際、冒頭にスタッフが読み聞かせの実践をしてみせたのが分かりやすかった。
- ・参加者のママたちが 3 カ国語で絵本の読み聞かせをしてくれた。参加者が主体となる場面が増えている。
- ・違う言語での読み聞かせを聞いて、参加者同士の国籍を超えた会話が生まれた。
- ・7ヶ国語で絵本を用意した。子どもたちは言語を気にしないで、絵本を手にとり楽しんでいた。保護者はいろいろな言語の絵本に関心を持っていた。母語の絵本で子どもに読み聞かせをする姿も見られた。
- ・保健師の話がためになった。子どもの食に限らず、保健師に育児相談をする親もいた。
- ・保護者が話を聞く場所と子どもが過ごす場所が同じだったためか、途中で飽きる子がいた。
- ・保健師さんの話では、お話の全てを通訳しきれなかった。
- ・今回はフィリピン料理の軽食を用意した。フィリピン人のママたちが積極的に準備をしてくれ、料理の名前なども教えてくれた。いつもより積極的な姿がみられた。
- ・後半特にバタバタしてしまった。三角おにぎりをみんなで一緒に作れなかった。

オ 参加者の反応

「本がおもしろかった」、「どこで本が買えるのか教えてほしい。」など、本に関心をもってくれる参加者がいた。「友達ができてよかった」という保護者も多かった。また、「フィリピン料理がおいしかった。食べたことがないので食べられてよかった。他の国の料理も食べてみたい。」との声もあった。

(4) 事業を実施する上でのポイントや課題

①親子で楽しめる活動を取り入れた。

参加者にとっていかに居心地のよい場所となるかが、サークルの鍵となる。仕事をしている保護者も参加しやすいようサークルを土曜日に行った。楽しく居心地のよい場所でなければ、休日にサークルに足を運ぶことにつながらないと考え、サークルの最初に親子で楽しめる活動を取り入れるようにした。親子で楽しくコミュニケーションをとる時間となっただけでなく、子ども同士、保護者同士の交流にもつながった。参加者からも大変好評だった。

②外国人スタッフに通訳だけでなく、積極的に活動に参加してもらった。

日本語に自信がない外国人保護者にとって、外国人スタッフの存在は大きい。参加者からの信頼が厚く、外国人スタッフがいるから参加する、外国人スタッフに誘われたから参加したという親子が多かった。外国人スタッフが中心となって働きかけをしたことで、参加者が主体となる活動を実現することもできた。

③参加者が主体となる活動を取り入れた。

外国人スタッフが中心となって声をかけ、参加者が主体となる活動を取り入れたことで、受け身だった参加者が自然と協力する雰囲気生まれ、主体的な参加、参加者同士の交流につながった。また、自国の文化に誇りを持ち、お互いの文化を尊重する機会ともなった。外国人保護者のエンパワメントを促進していくきっかけとなることが期待される。

④様々な言語の参加者が交流できるよう配慮した。

同じ言語同士で参加者が固まりやすい傾向にあり、ベトナム語やネパール語などサークルの中でマイノリティーになりやすい言語の参加者も楽しく参加できるよう、参加者同士がいかに交流できるかが今回のサークルの課題となった。ブラジル人ママが主体となったリズム遊び、多言語の絵本の読み聞かせや、フィリピン料理の試食などを通して、言語の異なる参加者同士の交流が生まれた。また、全ての言語に通訳が対応できないため、日本人スタッフが隣でやさしい日本語に言い換える、講師にやさしい日本語で話していただくなどの配慮をした。

⑤乳幼児期の子育てに必要な正しい育児情報を提供した。

乳幼児期の子育てに必要な、日本における幼稚園と保育園の違いなど制度に関する情報や健康、防災などの情報提供を行った。正しい育児情報が提供できるよう外部講師を招いた。どれも保護者の関心は高く、満足度も高かった。

⑥参加しやすいよう参加費無料、申込みを不要とした。

乳幼児を持つ保護者は、子どもの体調や機嫌に左右され、思うように外出できないことがあるため、参加者の負担とならないよう事前申込みは不要とした。サークルの中では、参加者が我が子の泣き声やわがままに気を遣いすぎることなく、スタッフや参加者同士、声を掛け合いながら、一緒に子育てをしていく雰囲気を作ることを目指しているが、子どもがぐずったり、言うことを聞けなかったりすると帰ってしまう参加者がいた。参加者が多くなると、こうした参加者や、初参加の親子へのフォローが行き届かなくなりやすいという課題が生じた。

⑦参加者が交流できる時間を設けた。

参加者によって、抱えている育児の悩みは違うため、テーマを決めた育児情報だけでは、必ずしも参加者の悩みを払拭できるとはいえない。軽食の時間を設けて、参加者が交流できる時間を設けた。軽食の時間やサークル終了後が、育児仲間を作る時間、子育ての悩みを打ち明け相談する時間となった。

⑧地域や行政、大学等の協力を得た。

保健師や保育士、小学校教諭、市職員、大学看護学部教員らを講師として迎え、外国人保護者の疑問や相談に直接答えていただくことができた。乳幼児親子教室に参加したり、市の関係部署職員を講師として迎えたり、また広報の協力を得たことで、サークルの周知を図ることができた。サークルの必要性を訴えるきっかけとしたい。

(5) その他、本事業の実施にあたりきづいたことなど

言語が異なる参加者同士の交流を促進するため、外国人の保護者が発案したリズム遊びを取り入れた。このリズム遊びを通して外国人保護者が主体となる場面を創れたことが、参加者同士の交流につながっただけでなく、サポートする側（実施者）とサポートされる側（参加者）の関係から、参加者と共に創るサークルへ発展し、より居心地のよい雰囲気を生んだ。

このサークルの中で、子どものために日本語で育てた方がよいのか悩んでいる保護者が、得意な言語で子育てをする大切さを知り、ほっとする姿がみられた。一方、現在も、日本語が分からない園児の保護者にどうアドバイスをすればよいか悩む保育士や幼稚園教諭がいる。今後も、得意な言語で子育てをする大切さを、保護者からの信頼が厚い保健師や保育士、幼稚園教諭等の専門職の方々の協力を得て、サークル内にとどまらず、広く外国人保護者に情報提供していく必要性を感じている。

多文化子育てサークルを通して、外国人保護者が地域とつながり、子育てしていくことの大切さを改めて感じた。同時に、多文化子育てサークルが外国人保護者のみを対象とするものではなく、日本人親子も巻き込んだサークルに展開していく必要性を感じた。日本人保護者と育児仲間となり、正しい情報を得ていくことが、外国人保護者の孤立化を防ぎ、地域とのつながりを生み出し、入園入学と子どもが成長していくに伴い、心強い仲間となると考えるからである。実際にサークルの中でも、日本人の友達ができたことをとても喜んでいる姿がみられた。

(6) リーフレットの作成

育児情報を提供する手助けとなるよう、昨年度に作成した「子どものことば」に関するリーフレットに加え、5種類のリーフレットを作成した。

リーフレットのタイトルは以下の通り。

- ①幼稚園と保育園
- ②子どもがいる家庭の防災
- ③子どもが元気に育つための生活習慣
- ④子どもの病気
- ⑤こどものことばどうする？（昨年度愛知県事業で作成）
- ⑥みらいJr. の活動（行政を含め関係者や地域の方に、活動の周知を図るための活動紹介）

平成 29 年 10 月 28 日（土曜日）NPO 法人みらいが実施した第 3 回「多文化子育てサークル」で、参加者自身が作ったハロウィン帽をかぶって撮った集合写真



2 NPO法人トルシーダ実施@豊田市

(1) 全体スケジュール

| | 日時・場所 | テ　　マ | 参加親子数 |
|-----|--|---------------------------|-------|
| (1) | 平成 29 年 9 月 30 日 (土) 午後 2 時～4 時 とよた市民活動センター | 「聞こう、話そう各国子育て事情」 | 20 組 |
| (2) | 平成 29 年 10 月 14 日 (土) 午後 2 時～4 時 とよた市民活動センター | 「図書館へ行こう」 | 9 組 |
| (3) | 平成 29 年 10 月 28 日 (土) 午後 2 時～4 時 保見交流館 | 「子どもと一緒におやつ作り」 | 27 組 |
| (4) | 平成 29 年 11 月 18 日 (土) 午後 2 時～4 時 とよた市民活動センター | 「幼児期の数の勉強について子どもと一緒に考えよう」 | 12 組 |
| (5) | 平成 29 年 12 月 16 日 (土) 午後 2 時～4 時 とよた市民活動センター | 「子どもと一緒に楽しむクリスマス交流会」 | 37 組 |
| (6) | 平成 30 年 1 月 20 日 (土) 午後 2 時～4 時 保見交流館 | 「子ども健康相談会」 | 8 組 |
| (7) | 平成 30 年 2 月 3 日 (土) 午後 2 時～4 時 とよた市民活動センター | 「ふりかえり『もっと知りたいこと』」 | 19 組 |

(2) 参加者募集方法

①チラシの配布

- ・昨年度の参加者、トルシーダの日本語教室の受講者にチラシを配布した。昨年度、参加者より、「不定期な開催で予定が立てにくい」との声があったので、今年度は2回目以降の6回の予定をまとめて記載したチラシを配布した。
- ・豊田市役所保育課を通して、市内の子ども園、幼稚園へチラシを配布した。
- ・豊田市役所子ども家庭課、保育課、国際まちづくり推進課、ブラジル人学校、豊田市国際交流協会、とよた市民活動センター、みよし市民活動センター、保見交流館にチラシ設置を依頼した。

②メール

参加者メーリングリストを作り、毎回参加の案内をした。

③フェイスブック

サークルの様子をフェイスブックで発信した。

④口コミ

日本語教室の参加者、公園で見かけた外国人等に直接参加を呼び掛けた。

(3) 各回詳細

第1回「子育てサークルオリエンテーション ～各国子育て事情～」

ア 参加者内訳（保護者の母語別）

ポルトガル語 9組、フィリピン語 5組、中国語 4組、韓国語 2組

イ 実施内容

| | 内 容 | 内容活動 |
|-------|------------|--|
| 14:00 | 会場案内 | |
| 14:15 | 導入 | サークル趣旨説明及び主催者の愛知県からのあいさつを行う。 |
| 14:30 | 自己紹介 | |
| 14:45 | 日本の子育てについて | スタッフが自分の子育てについて「どんな子どもになってほしかったか」「どんなことに力を注いだか」などを説明したのち、「おめでとう訪問」について説明をする。 |
| 15:00 | ワークショップ | 母国の子育てなどについての話し合いをする。テーマは、①ことば ②食べ物（おやつ）③遊び④日本人に聞きたいこと |
| 15:30 | 発表 | 参加者が日本語でワークショップの話し合い結果を発表し、それに対しスタッフからアドバイスをする。 |
| 16:00 | 終了 | |

ウ 目的

参加者に多文化子育てサークルの趣旨を理解してもらい、積極的な参加を促すとともに、参加者同士の仲間意識づくりをする。また参加者の日本での子育てに対する不安や悩みを聞く。

エ うまくいったこと/いかなかったこと、苦労したこと

- ・バイリンガルスタッフの口コミと、SNSでの広報により、予想以上の参加者があった。昨年からの参加者も数名いてサークル継続の効果があつた。
- ・最初に全員日本語で自己紹介をしたことで、子育てサークルとして雰囲気生まれた
- ・身近な話から親和性を感じてもらおうと、日本人スタッフの子育て経験を話した。後のワークショップでいろいろな意見が出るはずみとなった。
- ・バイリンガルスタッフとの打ち合わせの中で「おめでとう訪問」は、「自分の子育てについて非難をされるようで気が重い。断る外国人も少なくない。」という話が出た。子育ての不安を解消するためという「おめでとう訪問」の目的を伝えるために情報提供を行った。また、打ち合わせの段階で「おめでとう訪問」について行政担当者の話を聞くことで、チラシを配布していただけるなど関係ができた。
- ・ワークショップはブラジルチーム、フィリピンチーム、アジア（中国・韓国）チームに分かれて行った。「日本人に聞きたいこと」というテーマを設けたことで、夜間祝祭日に子どもが病気になったときはどうしたらいいか等、外国人に伝わっていない情報が分かった。

オ 参加者の反応

ワークショップでは、自分や日本人の子育てのこと等活発に意見が出た。「日本語が分かってても日本人のママたちとの付き合いは難しい。」「家で母語を使うことができない。」「子どもがほかの子となじめなくて不安（言葉ではなく、コミュニケーションの問題）。」「自分がママ友のなかに今一つ入っていけないことで子どもも同じような状態になっていると思い、不安。」「小学校に入るが、ママ友の中に小学生を持つ人がいなくて、自分は日本の学校も経験がないしどんな様子かわからず不安。先輩ママ（小学校経験者）の話を聞きたい。」「小学校に通っている子どもの悩みを相談したい。」などの悩み・意見があつた。

第2回「図書館へ行こう」

ア 参加者内訳（保護者の母語別）

ポルトガル語 3 組、フィリピン語 2 組、韓国語 1 組、マレー語 3 組

イ 実施内容

| | 内 容 | 活動内容 |
|-------|---------|--|
| 13:45 | 受付、準備 | 図書館利用カード発行申請書を記入する。 |
| 14:20 | 移動 | 豊田市中央図書館へ徒歩で移動する。 |
| 14:45 | 図書館訪問 | 館長さんより ①図書館についての説明 ②絵本の読み聞かせ ③折り紙の本の紹介と折り紙遊び ④日本語が分からない子どもたちのための本選びのポイント を御説明いただいた後、 館長さんの御協力を得ながら、子どもと一緒に本を選ぶ。 |
| 15:45 | 移動、振り返り | 市民活動センターへ移動し、活動の振り返りと次回の案内。 |
| 16:00 | 終了 | |

ウ 目的

図書館の利用について案内するとともに、子どもたちのための本選びについて専門家に話を聞く。

エ うまくいったこと/いかなかったこと、苦労したこと

- ・図書館の館長さんに豊田市中央図書館について話を聞き、図書館の利用を促した。事前に子どもたちの日本語のレベルがバラバラであること、年齢も4, 5歳～10歳位までと幅があることを伝えておいたことで、みんなが楽しめる本を選定し読み聞かせをしてくださった。
- ・館長さんから日本語が分からなくても楽しめる本の選び方を教えていただいた。お話の内容は以下のとおり。
 - ・色がはっきりしている絵本を選ぶといい。
 - ・絵で数字や数が分かるものものは、言葉がなくても理解できる。
 - ・わかりやすくかいてある絵、見てすぐ何かわかる絵の絵本を選ぶ。
 - ・クイズ形式になっているのも面白い。
 - ・アンソニーブラウンの絵本はおすすめ。
- ・図書館利用カードは参加者の多くがすでに持ってあり、住所の練習を予定していたが不要なかった。

オ 参加者の反応

館長さんからの読み聞かせは、大人も含めて参加者全員が聞き入っていた。また、図書館の説明と読み聞かせの後、子どもコーナーで本を選んだが、どの子どもも自分の好きな本を選び、どの家庭も上限いっぱいの本を借りていた。保護者の中には、「これから学校へ行く子どもたちにとって日本語は大切で、日本語を覚えるためにも本をたくさん読ませたい」という声があった。全員が母語（外国語）の本ではなく、日本語の本を借りていた。

カ その他

申し込みの電話で、「来日したばかりだが、待機児童で幼稚園に入れず困っている」という話があった。保育課にチラシへ配布を依頼した際に、家から少し距離はあるが空きのある子ども園の情報をもらい、参加者に伝えた。早速申込みに行くとのことだった。また、来日したばかりのマレーシア人と、中国語の外国人スタッフの家がとても近いことが分かり、この機会にお互いを紹介した。子育てのことを話せる近所付き合いができるといい。

第3回「子どもと一緒におやつ作り」

ア 参加者内訳（保護者の母語別）

ポルトガル語 16 組、フィリピン語 3 組、中国語 6 組、スペイン語 2 組

イ 実施内容

| | 内 容 | 活動内容 |
|-------|------------|---|
| 13:45 | 受付 | 子どもは託児の部屋に案内、大人は調理室へ案内する。 |
| 14:00 | 導入 | 当日の流れとレシピの説明（ブリガデイロ、わんたん、蒸しパン、ギナタアン ビロビロ）をし、言語ごとに調理のグループに分かれる。 |
| 14:15 | 調理 | 大人が中心となり、グループごとに母国のおやつを調理した。子どもも危険がない段階で調理室に移動し調理に参加した（ブリガデイロを丸めた）。 |
| 15:00 | 大人試食 | 参加者が母国のおやつについて説明する（どんな時に食べるかなど）。 |
| 15:40 | 講座 | 栄養士の先生から、「栄養」と「おやつ」について説明していただいた後、市販の子ども用お菓子を試食する。 |
| 16:00 | 子ども試食 | 子どもが調理室に移動しおやつを試食する |
| 16:30 | 振り返りと次回の案内 | 当日の振り返りと、今後のサークルについて説明する。 |

ウ 目的

いろいろな国の食べ物や食文化を知るとともに、栄養についての知識や子どもの体にいいおやつについて情報提供をする。

エ うまくいったこと/いかなかったこと、苦労したこと

- ・保見交流館の定員は 20 名のところ、大人、子どもを合わせ 45 人の参加者があり、急きよ子どもは別室（多目的ホール）で託児を行うことにした。
- ・調理室以外での飲食は禁止されているため、子どもは順番に調理室に入り、ブリガデイロを丸めた。
- ・事前に打ち合わせを行い、ブラジルはブリガデイロ、フィリピンはギナタアン ビロビロ、中国はワンタンを作って紹介するということにした。どの国の参加者もレシピを用意する、食べ物について紹介するなど積極的であった。予定していなかったペルー人の参加があったが、ペルーのメニューの準備がなく、申し訳なかった。
- ・参加人数が多かったこともあり、時間かなり超過した。
- ・栄養士さんからは以下のようなお話しがあった

- ・「おやつには、本来神様に捧げていた貴重なお供え物としての性格のものと、食事の栄養を補うための日常的なものがある。今日の例で言えば、「パーティーといえばこれ」といわれるブリガデイロは特別な日の食べ物。チョコレートはおいしいがカロリーも高い。ワンタンやギナタアン ビロビロは、でんぷんや野菜といった食事を補う物。子どもはよく動くので、大人よりエネルギーが必要。おやつで上手にビタミン等の栄養を補うといい。ブリガデイロのようなおいしくてカロリーの高いおやつは数を制限するなど気を付けて食べるといい。」
- ・飲み物（炭酸水やジュース）の約 10%は砂糖なので、気を付けて飲む。果汁 100%のジュースでも果糖という糖分が入っているので気をつけること。
- ・日本ではおやつに旬のものを食べる。旬のものは安価で栄養価が高くおすすめ。
- ・鬼まんじゅうは愛知県でよく食べられるおやつ。さつまいもを使っていて、ビタミンや繊維が取れる。

- ・おやつというテーマだったことからか、お菓子やジュースを持ってきた参加者も数名いた。
- ・栄養の話の後には全粒粉を使ったビスケットや、小魚アーモンド、油であげていない芋チップなど栄養を考えた市販のおやつを紹介して、試食した。
- ・終わってからもみんな楽しそうにおしゃべりしていて、少しずつ参加者の関係性ができてきていると感じた。

オ 参加者の反応

「子どもと一緒に料理を作れてよかった。」「いろいろな国の食べ物が食べられて楽しかった。」「鬼まんじゅうは簡単にできておいしかった。ビタミンも取れていいと思う。」などの感想をいただいた。「ブラジル人の子どもはカロリーの高いブリガデイロを食べているのでエネルギーが余って止まらないのかも・・・(ブラジル人ママの感想)」という声もあった。今後の活動に関して、「お弁当教室を開いて欲しい。」という意見があった。

カ その他

来日したばかりという参加者から、「日本語を勉強できる場所がないか」相談があった。すぐに入れる日本語教室はないが、参加者の中にこの人の家の近くに住む日本語上級者がいた。教えられないか聞くと「経験はないが考えてみる」とのことだった。コミュニティーの中で助け合う関係ができていくことを期待する。



平成 29 年 10 月 28 日（土曜日）NPO 法人トルシーダが実施した第 3 回「多文化子育てサークル」のなかで行ったおやつづくりの様子

第4回「幼児期の数の勉強について子どもと一緒に考えよう」

ア 参加者内訳（保護者の母語別）
ポルトガル語 8 組、中国語 4 組

イ 実施内容

| | 内 容 | 活動内容 |
|-------|------------|--|
| 13:45 | 受付 | 言語別グループに分かれ、親子で着席する。 |
| 14:00 | 導入 | 当日の流れを説明したのち、保護者に対し、5～6歳までに必要な数の概念について説明する。りょう、数える、比べる、わかる、かたちの概念が必要であるといった話をする。 |
| 14:20 | 数遊び | 親子で指やお菓子を数えるとともに、みかんの袋の数を比べたり、アバカス、算数セットで遊ぶ。また、1から10を日本語、ポルトガル語、中国語で数える。 |
| 14:40 | ワークショップ | 保護者が「家庭でどんな数遊びができるか」を話し合い発表。 |
| 15:20 | すごろくづくり | 親子の共同作業で、数のすごろくを作成する。 |
| 15:55 | 振り返りと次回の案内 | 当日の振り返りと、次回のサークルについて説明する。 |

ウ 目的

数について、家でできるサポートがあることを知るとともに、楽しんで算数の勉強につなげる方法を参加者と共に考える。

エ うまくいったこと/いかなかったこと、苦労したこと

- ・下は2歳、上は10歳の子どもたちが参加し、それぞれの子どもの年齢に合った遊びが必要で、焦点をどこに当てるかに苦労した。
- ・初めて「親子一緒に作業」を実施した。子育てが大変でイライラしているお母さんがいたが、飛び込みで初めて参加した人で、このサークルへ期待していることも分からず、上手に声掛けすることができなかった。

オ 参加者の反応

ワークショップでは、「家でお皿を数える」、「お箸やスプーンの数比べる」という意見がたくさん出た。親子での作業は子どもの年齢によっては手伝いが必要だが、楽しそうにすごろくのボードを作っていた。保護者からは、「楽しかった。」「子どもと一緒に作業ができて良かった」などの感想が聞かれた一方、「小さい子ども（2歳）に2時間は長すぎる」という感想もあった。そのほか、「学校の算数で使われている日本語の勉強をしたい。」「学校へ入る前に家でしないといけなことがあることが分かったが、1年生になるまでに間に合うか、心配」といった意見もあった。

第5回「親子で楽しむクリスマス」

ア 参加者内訳（保護者の母語別）

ポルトガル語 9 組、フィリピン語 7 組、中国語 20 組、ベトナム語 1 組

イ 実施内容

| | 内 容 | 活動内容 |
|-------|------------------------|--|
| 13:45 | 受付 | 言語別グループに分かれ、親子で着席する。 |
| 14:00 | 導入 | 当日の流れを説明する。 |
| 14:20 | 「日本人家庭の冬の過ごし方」について情報提供 | 日本の「冬の遊び」「家族での過ごし方」「雪遊びができる場所」などについて地域の子育てサークル「グローバル豊田」スタッフから説明する。 |
| 14:40 | 国別に母国のお正月とクリスマスについて説明 | 参加者がプロジェクターを使用し、事前に作成・準備したスライド、写真、YouTube を見せながら発表する。 |
| 15:20 | 休憩 | ブラジルのおやつ「パネトネ」、黒豆などを試食する。おみくじを配布しおみくじに記載されている順位ごとに景品を配る。 |
| 15:30 | ワークショップ | 粘土で工作をする。 |
| 15:50 | 日本人子育てサークル活動の紹介 | 地域の日本人の子育てサークル「森の幼稚園」の紹介を行う。 |
| 16:00 | 片付け、終了 | |

ウ 目的

寒い季節の親子のふれ合いとして、冬の遊びを紹介する。また、母国のクリスマスやお正月を参加者が紹介し、主体的な参加を促し異なる国同士の交流や理解のきっかけにする。さらに、親子で粘土作品を作り、子どもと関わる機会にする。

エ うまくいったこと/いかなかったこと、苦労したこと

- ・クリスマスは宗教色の強い行事だが、いろいろな文化の人たちが集うサークルで、宗教色を出してもいいのか、控えた方がいいのか悩ましかった。スタッフと話し合いそれぞれの国の文化という位置づけで紹介してもらうことにした。
- ・参加者が想定より多く、途中でマイクを借りるなど準備不足の面があった。
- ・いろいろな国の人たちとの交流をしながら実施している他の子育てサークルに、日本人の冬の過ごし方の情報提供を依頼した。実際に子育てサークルに関わっている日本人のお父さんの話を聞いたことはよかった。また、手作りのおみくじや折り紙のコマなどを参加者にプレゼントしていただいた。
- ・各国の発表準備は、トルシーダのスタッフと協力グループのメンバーに任せたが、できれば事前に全体で打ち合わせをする機会があるとよかった。趣旨についての共通理解があったので各国共に特徴のある発表ができた。
- ・参加の子どもたちの年齢の幅が広く、どんな年齢でも楽しめる内容にすることが難しい。発表を集中して聞ける時間も短いし、発表に参加する方法も工夫が必要。ワークショップの粘土細工はどの子どもも楽しんでた。
- ・粘土細工の見本を用意したが、子どもたちはそれぞれオリジナルで好きなものを作り、見本は必要なかった。
- ・会場を「クリスマス・お正月」のデコレーションで飾りたかったが、余裕がなかった。
- ・新聞販売店に寄付していただいた販促品がおみくじの景品として役にたった。

オ 参加者の反応

「いろいろな国の話が聞けて良かった。」「いろいろな国のことが分かったし、違う国の人と知り合えてよかった。」「日本人と話ができてよかった。」「私の子どもはいつも学校で一人です。今日はブラジルの子どもたちと遊べてとても良かった。ブラジルのクリスマスの話や食べ物がよかった。」など、交流についての前向きな感想があった。また、「ブラジルのめずらしい飲み物（マンゴジュース）やお菓子（パネトーネ）は初めてだったので、とても良かった。」「おみくじの景品に中国で流行っている「小さなりんご」があって嬉しかった。」「子どもたちも発表に参加できてよかった。もっとこういう機会が欲しい。」「旭高原で雪遊びができる情報が聞けてよかった。」「日本人の子育てサークルの話は勉強になった。」といった声もあった。



平成 29 年 12 月 16 日（土曜日）NPO 法人トルシーダが実施した第 5 回「多文化子育てサークル」のなかで行った「日本人家庭の冬の過ごし方」について情報提供の様子

第6回「子ども健康相談会」

ア 参加者内訳（保護者の母語別）

ポルトガル語 5組、フィリピン語 3組

イ 実施内容

| | 内 容 | 活動内容 |
|-------|----------------------|---|
| 13:45 | 受付 | 言語別グループに分かれる。子どもは託児を行う。 |
| 14:00 | 導入 | 当日の流れ説明のあと講師紹介をする。 自己紹介シートを記入する。 |
| 14:15 | 自己紹介 | 参加者は記入した自己紹介シートを読んで自己紹介する。 |
| 14:30 | 看護師の先生のお話 | 「風邪をひかない（ひかせない）暮らし」をテーマに、看護師の先生からのお話を聞く。 消毒用アルコールジェルを配布する。 |
| 15:00 | 相談会（質疑応答） | 子どもの健康についての不安や疑問についての質疑応答。 |
| 15:20 | 「あいち医療通訳システム」についての説明 | 愛知県職員から、「あいち医療通訳支援システム」を紹介する。 |
| 15:35 | 飲み物紹介、試飲 | 参加者が母国の風邪に効く飲み物を紹介し、全員で試飲する。 |
| 15:55 | 日本語で話してみよう | 「肩を回します」「腕を振ります」など、簡単な日本語の指示に合わせて体を動かす。 |
| 16:00 | 片付け、終了 | |

ウ 目的

インフルエンザの流行に備え、家庭で気を付けることや対策を学ぶとともに、子どもの健康について不安や疑問に思っていることを専門家（看護師）に聞く。また、参加者の国での風邪をひいたときの飲み物を紹介することで、仲間意識を醸成したり、子育てについて話し合ったりする機会を作る。

エ うまくいったこと/いかなかったこと、苦労したこと

- ・開催がインフルエンザの蔓延時期に重なった。いつもの参加者の子どもさんのほとんどが、インフルエンザに罹っていて、参加者が少なかった。
- ・当初予定していた会場が定員20名の部屋で、5回目までの参加状況からみて、もっと広い会場が必要と判断した。そして、会場をとよた市民活動センター会議室から保見交流館ホールに変更した。チラシの訂正版も作り配布したが、結果的に参加者は少なく、会場変更の必要はなかった。
- ・あいち医療通訳支援システムについて知らない参加者もいて、情報提供の機会になった。

オ 参加者の反応

「風邪をひかない飲み物は、地域や家庭により異なり、事前に子ども時代のことなど話し合えたのが楽しかった。子ども時代は病院など行かなかったことを思い出した。」「普段、外国人だから差別されていると思うことがたくさんあるが、日本人もいろいろあることが分かったし、そういうことが話せてよかった。」「中国のお茶はすごく健康に良さそう。」といった参加者からの声があった。また、看護師の先生からも「ブラジル、中国の飲み物はそれぞれ、栄養価が高く、病気のときの飲み物として理にかなっている。」といった話があった。なお、参加呼びかけの返信メールでは、「私の子どもは今二人ともインフルエンザです。このテーマはもっと早くしてほしかったです。遅いです。」との意見もあった。

第7回「子育てサークルでもっと知りたいこと」

ア 参加者内訳（保護者の母語別）

ポルトガル語 5組、フィリピン語 3組、中国語 8組、スペイン語 3組

イ 実施内容

| | 内 容 | 活動内容 |
|-------|-------------------|---|
| 13:45 | 受付 | 言語別グループに分かれる。 |
| 14:00 | 導入 | グループ内で自己紹介、サークルの趣旨説明、講師の紹介。 |
| 14:20 | 地域の子育てサークルの活動紹介など | 子育てサークル「もりのようちえん」のスタッフからの活動紹介のあと、リズム遊びをしてもらう。 |
| 15:05 | ワークショップ | 「多文化子育てサークルでこんなことをしたい」というテーマでワークショップを行う。 |
| 15:25 | 発表 | 参加者が日本語でワークショップの話し合い結果を発表する。 |
| 15:40 | フォトフレームづくり | 第5回のサークルで撮影した写真を配布し、写真を入れるためのフォトフレームを親子で作成する。 |
| 16:30 | 片付け、終了 | |

ウ 目的

日本人主催の子育てサークルについて意義や、目的、楽しめることなど話を聞くとともに、当事者としてこんな子育てサークルをしたいという話し合いをする。また、フォトフレームづくりを通しての親子のふれあいと、参加者同士の交流を図る。

エ うまくいったこと/いかなかったこと、苦労したこと

- ・ NPO 法人「森のようちえん」の説明は分かりやすく、リズム遊びは大人も子どもも一緒に盛り上がった。「森のようちえん」の代表は音楽家でリズム遊びでも、プロの力を感じた。
- ・ ワークショップは言語別に分かれたが、こちらにテーブルファシリテーターの準備がなく、着地点がはっきり示せなかった。なお、ワークショップでは以下のような意見が出た。
 - ・ 子どもと一緒にゲームをしたり歌をうたったりできるサークルがいい
 - ・ 「お願いします」と言える子どもになってほしい。子どもの躰について話し合いたい
 - ・ 自分の子育てについて一人ひとり発表して、いろいろな立場の人と話し合いたい
 - ・ 「インフルエンザなので登園してはいけない」と言われても、どうして外へ出てはダメなのか分からない。理由をちゃんと説明してほしい。
 - ・ もっといろいろな国の言葉を覚えたい（子どもの意見）。
 - ・ いろいろな国の子どもたちと知り合って、遊んで楽しかった（子どもの意見）。
 - ・ 子育てサークルはモチベーションを高める取り組みだった。
 - ・ 日本語が分からないので困っている人がたくさんいる。特に、保育園や学校の行事は早めに案内がないと、仕事を休めないで困る。
 - ・ イベントなども外国人向けに説明してほしい。
 - ・ 自分たちの言葉や文化、料理など、既に親の世代が知らないという状況になってきており、次の世代に伝えていくことの大切さを感じている。
 - ・ 自分たちの国のいいところを伝えないといけないけど、だんだん薄れてきている。
 - ・ 子どもは、日本語もポルトガル語でも上手く伝えられなくなってきている。

オ 参加者の反応

「いろいろな国の人と知り合えて楽しかった。」「子どもが同じ保育園へ行っている保護者と知り合えた」等交流をとおしての感想のほか、「子どもたちと楽しく遊べた。」「写真がもらえて嬉しかった。」といった声もあった。また、「時間が短い。」という声もあった。

(4) 事業を実施する上でのポイントや課題

- ①子育てについて情報提供をすると共に、参加者が子育てサークルへ主体的に関われるよう、それぞれの国の子育てや、日本で子育てすることの不安や戸惑いを話し合い、仲間作りの場とした。参加者同士の自己紹介は、お互いに知り合うきっかけや、日本語を使う機会として有効だった。
- ②図書館長、栄養士、看護師等それぞれの専門家から情報提供をしていただいた。参加者は「どうしてそのことが必要なのか、大切なのか」という説明を分かりやすく聞くことができた。また、講師の皆さんにも外国人への情報提供の重要性を伝えることができた
- ③楽しい子育てサークルにするために、話を聞くだけではなく、子どもと一緒に遊んだり、工作をしたりする時間を設けた。
- ④「おやつ」「各国のクリスマス（お正月）」など、参加者がそれぞれの国について紹介する機会を設けた。保護者が出身の国について誇りを持って語る姿を子どもたちが見たり、子どもと出身の国について話をしたりする機会になった。サークルがきっかけで、地域の交流館で料理教室の講師を依頼された参加者もいた。
- ⑤多文化子育てサークルを実施する上で、言葉の問題だけではなく、サークルの企画、参加者募集等バイリンガルスタッフの存在は欠かせないが、参加者全ての言語に対応できる体制は難しい。
- ⑥ポルトガル語、中国語以外の参加者は少人数のグループになってしまい、居心地が悪くないか等の心配をしたが、結果的に韓国、ベトナム等は継続的な参加につながらなかった。少人数言語グループを作らないために、日本人参加者を募りつなぎ役となってもらう等の工夫をしていく必要を感じた。

(5) その他、本事業の実施にあたり気づいたことなど

今回、一番感じたことは外国人が感じている心の壁だった。例えば病院で外科的な処置をするときに子どもが怖がって泣き、何もしてもらえなかったことを「外国人だから」治療してもらえなかったと思っていると語った参加者がいた。

また、新生児の「おめでとう訪問」について、制度は知っていても「叱られそうで怖いので断る」という参加者が大半だった。イベントのために公共施設を借りようとしたが、外国人だから貸してもらえなかったという話もあった。他の外国人のマナーが悪いせいだと考え「ルールを守らない外国人はいるが、自分たちは違う。外国人をまとめて考えないで欲しい」との意見だった。しかし、話の内容から実際には貸出し規則に沿ってのことだと思われた。

これらのことは、日本語が分かる分からないに関わらず、詳しい説明がないままに行われていることに対し理由が分からず、制度やルールを押し付けられるような気持ちになり「外国人への差別」と感じているのではないかと思われた。

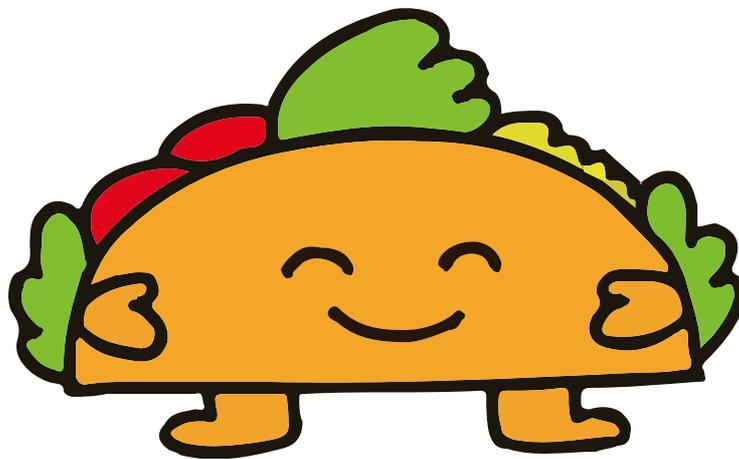
心の壁は日本人にもあり、解決にはつながらないが率直な話ができただことは成果であり、多文化子育てサークルが、情報提供や日本語学習のきっかけとなるだけでなく、日本人との相互理解や多文化の学びの場となる可能性を感じた。

「多文化子育てサークルによる言語習得促進事業」に係る啓発資材作成委員会
委員等名簿

| | |
|-------|---|
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ●松本 一子（愛知淑徳大学 非常勤講師） ●山本 順大（小牧市こどもこころの相談室 相談員） ●後藤 初江（豊明市立中部保育園 副園長） ●越智 さや香（NPO 法人みらい 代表理事） ●伊東 浄江（NPO 法人トルシーダ 理事長） ●木佐貫 昭二 （愛知県県民生活部社会活動推進課多文化共生推進室長） ●大橋 充人（同 室長補佐） ●大久保 園子（同 主査） ●柴田 睦美（同 主事） |
| 執筆協力者 | <ul style="list-style-type: none"> ●川崎 直子 （愛知産業大学短期大学准教授/ 一般社団法人かにえ子ども日本語の会 代表理事） ●鈴木 崇夫 （名古屋大学国際言語センター特任助教/ とよた日本語学習支援システム システム・コーディネーター） ●大谷 かがり （中部大学保健看護学科助教/外国人医療支援グループ） |
| 企画編集者 | <ul style="list-style-type: none"> ●丹羽 典子（NPO 法人にわたりの会 理事長） ●丹羽 智子（NPO 法人にわたりの会 事務局長） |

なお、「あいち多文化子育てブック」の作成にあたっては、以下の方々にも御協力いただきました。

- 1 イラスト・・・ベジこ
- 2 翻訳監修・・・中川郷子（NPO 法人カエルプロジェクト）
Lidia Yuri Kubota de Tsukayama（NPO 法人カエルプロジェクト）
アレン ネルソン（NPO 法人にわたりの会 ボランティア）
張篠叡（NPO 法人にわたりの会 ボランティア）
ダリル ジョー（NPO 法人にわたりの会 ボランティア）



「多文化子育てサークル」実施マニュアル

2018年3月

愛知県県民生活部社会活動推進課多文化共生推進室

〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

電話：052-954-6138（ダイヤルイン）

FAX：052-971-8736

E-mail：tabunka@pref.aichi.lg.jp

<http://www.pref.aichi.jp/syakaikatsudo/tabunka.html>

<https://www.facebook.com/Aichitabunkakyouseinet>



あいち多文化共生ネット



facebook